

日
整

はつらつ!



●目次

■モンゴル人指導者育成第2回日本研修開講式 母国で多くの人を救いたい!!	1
① ちょっといい話 パール博士の大東亜悲願の碑	8
第22回日整全国少年柔道大会	9
第3回日整全国少年柔道形競技会	14
第37回日整全国柔道大会	16
② 柔整サロン 柔道一筋 1964東京オリンピックから2020東京オリンピックへ	23
私たち柔道整復師は全国各地で活躍しています	
●公開健康講座	28
群馬県 平成25年度生涯学習講習会 愛知県 第1回アスレチックトレーナー研修会 兵庫県 平成25年度スポーツ科学講習会 大阪府 第3回府民健康づくり講座	
●防災	31
栃木県 栃木県・足利市総合防災訓練 千葉県 第34回九都県市合同防災訓練・千葉県会場訓練 愛知県 各地で防災訓練に参加 鳥取県 鳥取県との災害協定締結	
●少年柔道大会	35
北海道 第36回北整柔道大会 第22回北整全道少年柔道大会 第3回北整全道少年柔道形競技大会 和歌山県 第4回近畿少年柔道大会 兵庫県 第29回兵庫県柔道整復師会少年柔道大会 鳥取県 日整全国少年柔道大会鳥取県予選	
●ボランティア・その他	37
神奈川県 災害現場のようでした 石川県 草刈奉仕活動ボランティア 島根県 島根大学医学部 解剖実習見学 広島県 はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン大会2013 福岡県 飲酒運転撲滅宣言県内施術所の一括登録が新聞に掲載	
③ ご当地豆知識 出雲大社60年ぶりの大掃除	41
■平成25年度学術・生涯学習講習会印象記	42
■学術シリーズ（第18回）	
腰痛や肩こり（頸肩背部痛）の発生要因とその予防改善対策について	44
④ 私の夢 地域のために私ができること	46
■日整会主催学術大会一覧	46
■表紙解説	47
■日整文芸	48
■編集後記	表3

●Web Page 日整ホームページ <http://www.shadan-nissei.or.jp/>

トップページの最新情報、健康情報誌「日整はつらつ!」VOL.13
または「日整はつらつバックナンバー」から入り当ナンバー広報誌を
クリックしてご覧ください。QRコードもご利用ください。



母国で多くの人を救いたい!!

モンゴル人指導者育成 第2回日本研修開講式

公益社団法人日本柔道整復師会（以下、日整）は、平成25年10月22日（火）東京ドームホテルにおいて関係各位の来賓を迎え、「JICA草の根技術協力事業（パートナー型）2013年度日本伝統治療（柔道整復術）指導者育成・普及プロジェクト第2回日本研修開講式」を開催した。

この日本研修は、日整が2006年から NGO の支援事業と、JICA の委託事業として取り組んでおり、モンゴル国において柔道整復術を教える立場になる人材を受け入れて、技術と知識を習得させることを目的としている。

研修を始めるのは、ダシュラダン・ボロルトゥーヤ准医師、バトムンク・アルタンエルデネ准医師、ムンフバートル・ボロルチメグ准医師の3名の指導者研修生。2か月間にわたり柔道整復術について、日整会員の接骨院、

整骨院およびこの事業にご理解いただいている整形外科医院で研修を実施する。開講式では研修生3名によるモンゴルでの活動報告がスライドで説明しながら行われた。

引き続き懇親会が開かれ、工藤会長から「痛みを感じながら、痛いところに手を当て、心を読んで治療する技術を学び、子供たちの怪我に対して全身全霊で臨むことを約束できますか」との問いかけに研修生は「がんばります」と研修に対する強い決意を示した。

同会場では、モンゴル国立健康大学付属看護学校新学長のオトンゴア・ネメヒー氏の挨拶が、インターネットにより現地中継された。また、ツウブ県のバグ医師講習会場からも中継が配信され、両国の友好関係の象徴的な開講式となった。





▲挨拶する工藤会長

2020年東京五輪へ参画を要望

開講式は、午後4時から国際部本間琢英部員の司会進行にて、木山時雨副会長の開式の辞で始まった。

挨拶に立った工藤会長は「今回は閉講式から始まりました。閉講式は日本において学んだ人たちの発表で、開講式は、閉講式で発表した先生たちが帰国してどのような活動を行ったのか報告をしていただきます。

西洋医学を国が受け入れたとしても地域によっては、恩恵を被っていない場所もあるため、その中で柔道整復術は安価で安心で、日本で長い間伝統的に培ってきた技術、これは間違いなく世界で必要とされる技術であり、WHOでも柔道整復術を日本の伝統医療として認められた技術であります。

2020年東京オリンピックのときには、我われは医師会と共にトレーナーの活動をしっかりとやらせていただくそのための働く場所を提供していただきたいことを文部科学大臣にもお願いしてあります。

後は、我が業界が優秀なアスリートに対して、自分たちの名誉を賭けて医師会と共に、日本の武士道精神にのっとった『おもてなし』ができるか、できないかに掛かってくると思いますので、日本柔道整復術会が限らない研究と学術研鑽を積んでそれを提供していくように頑張っていきたいと思っております」と述べた。

モンゴルでの活動の現況と将来展望

続いて、国際部の富永敬二理事から次のように説明と報告があった。

モンゴルでの活動は、2005年3月公益社団法人東京都柔道接骨師会が朝青龍財団の招聘でモンゴルを訪れたのが始まりで、その後、外務省の「日本 NGO 連携無償資金協力」を受け事業を実施し、2009年10月からは、国際協力機構 JICA と業務委託契約を結び「草

の根技術協力支援型」としてプロジェクトを実施した。これによりモンゴルの医療従事者とモンゴル国民に柔道整復術の必要性と有効性を認識してもらうことが第一目標である。

我われが撤退した後も、柔道整復術の普及、指導活動をモンゴル人のみで行うことができるようにしたい。そのためには柔道整復術指導者育成が不可欠で日々研鑽を積んでいる。



▲富永国際部担当理事

今回の研修は富山県で

毎年2回の受け入れを実施し、整形外科医院、接骨院、整骨院でそれぞれ1ヶ月合計2ヶ月の研修を実施。接骨院研修は、日整会員の下で行っている。今まで、東京、佐賀、埼玉、茨城、香川の各都県で実施。

今回は、平成25年10月23日から、富山県に移動し研修を実施する。整形外科医院での研修先は、毎回受け入れていただいている、埼玉県の高原整形外科医院のほか、今回は、東京都の鳥



▲会場風景

居整形外科医院、きよせ松山クリニックの先生方に、事業の趣旨をご理解いただき引き受けていただいた。

今後の課題

モンゴルでは政権交代があり、さまざまな制度見直しが行われ医療制度も例外ではなく、我々がカウンターパートの大学で教えていたバグ医師コースは廃止され、カウンターパートの2大学で新学長が誕生した。

このような状況下で、プロジェクト後も上位目標達成のためには、バグ医師をはじめとする医療従事者に対し、引き続きモンゴル人指導者候補が中心となり行っていくことが絶対に必要である、と報告した。

日本固有の技術



▲地球広場 NGO 連携課内藤課長

来賓の祝辞として、地球広場 NGO 連携課の内藤徹課長は「今回来日された3名の研修生に

対して、これから約2ヶ月弱、純粋な技術あるいは知識を学ぶということは非常に有意義なことです。文化の背景となっている日本を理解することも重要です」と歓迎の言葉を述べられた。更に「この日本研修は JICA でもさまざまな形で各国からお招きしていますが、特に今回の目的である柔道整復術は日本固有の技術であり、日本の伝統が作り上げたものであります。

一都6県を対象に60件ほどの JICA 草の根協力事業の中でも、日本独自の技術を出し海外においても有効に活用される技術プロジェクトは、関係者を含めた組織の強さ、チームワークの強さだと思っております。今後重要なことは自立のステージ、モンゴル側において、自分たちでやっていけるステージまでできればと思っております」と期待を込められた。

途上国に貢献



▲中国・モンゴル第一課藁谷首席専門官

中国・モンゴル第一課の藁谷栄首席専門官は「最初、2008年から2010年までモンゴルに勤務していました。外務省から NGO 無償事業の外勤をしていたのが日本柔道整復師会との出会いのきっかけとなりました」と経緯を語り、JICA の事業を継続して行っていることに対して称賛された。柔道整復術に関しては「日本の中で培われた技術をそれぞれの途上国でどうやって生かすかという意味では、JICA のプロジェクトあるいは日本の開発途上国に対する貢献

でも非常に画期的で、今後の日本の在り方を考えるうえで大変重要なツールであると思います」と話された。

研修員 モンゴルでの活動報告

氏名：ダシュラウダン・ボロルトゥーヤ
年齢：22歳 女性 准医師
所属：第3産院
学歴：2011年モンゴル国立健康科学大学看護学校卒
専攻：准医師・看護師
取得資格：准医師・看護師



今年6月～8月まで研修帰国し2ヶ月間の活動報告をします。

①患者は階段から落ち、足関節を負傷し受傷3日後に私の自宅に来ました。重度の靭帯損傷でした。②仕事中心に落ちたとき、足関節と膝関節を捻り、アルタイ先生とボルロチメグ先生と共に診察をしました。③2mの高さから落下し、

手首の骨折をしたため連絡があり、講師の先生の指示の下、整復・固定を行いました。モンゴルではほとんどのケガに対して、固定をしないため、関節の機能障害を残します。柔道整復術の包帯固定を施し、良好な結果が得られました。

氏名：バトムンク・アルタンエルデネ
所属：バヤンホンゴル県ジャルガラント市立病院 バグ医師
年齢：28歳 男性 准医師
学歴：2006年モンゴル国立健康科学大学ゴビアルタイ看護学校卒
専攻：准医師・看護師
取得資格：准医師・看護師



今回このような機会を与えていただき、ありがとうございます。バヤンホンゴル県ジャルガラント市立病院は、3,000人位の人口で、一日50人から60人の患者が来ます。医師が4名、准医師3名、看護師7名ほか関係者で構成されています。医療技術大学で、看護師に対して包帯



の技術を講義いたしました。バヤンホンゴル県の県立病院で2週間の研修中、さまざまな外傷を経験したとき、柔道整復術が大変役に立ちました。今後も多くの人たちを救えるよう頑張りたいです。

氏名：ムンフバートル・ボロルチメグ
 年齢：20歳 女性 准医師
 所属：モンゴル国立健康科学大学附属看護大学 Skil lab
 学歴：2013年モンゴル国立健康科学大学医療技術大学（2010-2013）
 専攻：准医師・看護師
 取得資格：准医師、看護師



私は、日本に来るのは初めてです。モンゴルでは、地方で放牧しながら生活し、馬上からの転落や不整地での転倒など日常生活の中で怪我

をするケースが非常に多く見られます。モンゴルでは外傷は基本的には手術療法が主流ですが、手術は経済的負担が多いうえ、手術後の後遺症が頻発しておりモンゴルで社会問題となっています。柔道整復術は、保存的治療であるため経済的な負担が少なく、治療効果も高いことが理解できました。私は、柔道整復術を更に深く習い、母国でこの方法を発展させ、モンゴル国民の健康分野に貢献をしたいと考えています。

明日から1ヶ月間、富山県での研修に期待し、萩原正和副会長の閉式の辞により厳粛のうちに終了した。



開講式ならびに懇親会来賓出席者（順不同）

衆議院議員 逢沢一郎様
 衆議院議員 鈴木俊一様
 参議院議員 中川雅治様
 参議院議員 有村治子（代）様
 自民党東京都連 中屋文孝様
 外務省アジア大洋州局
 中国・モンゴル第一課上席専門官 藁谷 栄様
 自由民主党東京都連幹事長 内田 茂様
 駐日モンゴル国大使館一等書記官
 スフバートル・ボロルチメグ様
 独立行政法人
 国際協力機構国内事業部地球ひろば

NGO 連携課課長 内藤 徹様
 NGO 連携課市民参加協力員 毛利花絵様
 株式会社共同通信社常務取締役 高井雅司様
 株式会社共同通信情報企画部本部企画部
 行政書士 土屋 出様
 産経新聞東京本社企画業務室室長 佐藤信義様
 楠崎正人様
 社団法人日本着付けの会会長 伊藤尚子様
 学校法人花田学園理事長、
 東京有明医療大学理事長 櫻井康司様

共同通信社が全面的に支援



▲萩原正和副会長

引き続き多数の来賓をお迎えして、懇親会が開催された。萩原正和国際部担当副会長は挨拶の中で「3名の活動報告の心構えに大変感動をしました。この指導者育成普及プロジェクトに対しては全面的に支援しながら進めていき、国際活動で外に発信し、外の方からも我われを認めてもらうよう努めていきたい」と述べた。

全面的に支援しながら進めていき、国際活動で外に発信し、外の方からも我われを認めてもらうよう努めていきたい」と述べた。



▲インターネット中継の様子

次に、モンゴル国立健康科学大学付属看護学校オトンゴア・ネメヒー新学長とのインターネット中継での挨拶があった。

国際活動についての報告は、萩原隆国際部長と、金井英樹国際部員が、日本伝統治療普及事業の取り組みを説明した。



▲萩原隆国際部長



▲金井国際部員



▲共同通信社高井常務取締役

乾杯の挨拶に立った共同通信社の高井雅司常務取締役は「共同通信社は日本全国、北は北海道、南は沖縄まで新聞社にニュースを配信することを業務としております。同時にアジアに軸足を置く国際

通信社として、アジア諸国にも情報の発信に力を入れています。文字、写真、映像を通じて国際交流を諮っているところであります。ただ、情報というものは、良いものもあれば悪いものもあり、国際交流に関していえば、一進一退を繰り返しながら徐々に進んでいくものだと思います。それに対して、柔道整復師会の国際交流プロジェクトは、情報を通じての国際交流とは若干違い、フェイスツーフェイスで、日本の伝統技術を通じて進めていく国際貢献は、相手側の心の奥底にじわりじわりと浸み込んでいって、容易に覆ることのない強さをお持ちではないかという印象を持ちました。このプロジェクトで学ばれるモンゴルの方々が母国に帰られましたら、ぜひその知識、技術を使われて、日本国民のモンゴル国民への友情をしっかりと伝えていただければと思います」と述べられ、柔道整復師会の国際交流活動ならびに日本国とモンゴル国の友好の更なる発展を祈念し、声高らかに乾杯をした。





▲決意を述べる研修生

多くの来賓の方々から、柔道整復術に期待するありがたいお言葉をいただき、有意義な雰囲気の中、研修生から「本日はありがとうございました。明日から富山県で柔道整復術を学んで、一生懸命勉強しますのでよろしくお願いいたします」と流暢な日本語で述べた。激励の言葉として工藤会長から「モンゴルの地方にはレントゲン、画像診断、注射などはありません。何かあるかという、NGOが送った発電機だけです。このようなところで我われの技術は、状況判断の下で骨折の整復をするということを、目の当たりに見て凄く衝撃を感じたと思います。そのためか、我われの仲間がモンゴルに行ったときぜひ協力させてください、応援しようという医学部の学生たちが、学校でクラブを作りそこで日本語も学んで、日本に来ている訳です。ですから、たんなるモンゴルから子どもたちが来ているということではなく、もっと真剣にモンゴルが発展することを願いながら技術提供をしていかななくてはなりません」と我われにも問いただした。そして、「250名の柔道整復師が、韓国で社団法人大韓柔道接骨師会という会を設けて技術提供をしていましたが、今から30年位前に我われが訪れたときにはこれがなくなっていました。これは、日本においても明治6年に消滅されたときと同じ思いを韓国も経験した経緯があり、韓国でもう一度柔道整復師を復活させようと、韓国の大学に物療学科を作ってもらいました。このような発展の中で、何かをしようということで、7年後パラリンピックが来ますがそれに向けて、橋本昇東京都理事が団長となり、韓国のオリンピックスタジアムのところに、柔道整復師の名前を掲げて救護活動を行っています」とすでに先を見た活動についても述べられ



▲エールをおくる工藤会長

た。そして、モンゴル、ミクロネシアなど子供たちの調査をした結果について述べ、子供たちの変形治癒が非常に多いことに触れ「日本には、かつてサッカー世界選手権の際、試合に出られないポルトガル選手に対して、柔道整復師が3日の治療で試合に出場させ MVP も獲得し母国に帰るとき『日本には神の手がいる』ということ朝日新聞が取り上げてくれました。このような技術ですから3名の研修生の諸君、この技術はモンゴルの将来、未来のために絶対に必要な技術です。なぜかという、明治初期に消滅した技術を、日本の国民が必要として、どんなに文化が発展しようと、文明が発展しようと、痛みを感じながら、痛いところに手を当て、心を読んで治療する技術これは世界にない技術でありますから、子供たちの怪我に対して、全身全霊で臨むことを約束できますか」と尋ねられると、研修生からは「がんばります」と研修の決意を約束した。そして、尊敬する人に贈るモンゴル国の伝統的な儀式である「五色布の上にチーズ菓子」を乗せた贈り物を手渡した。最後に、豊嶋総務部長の閉会の言葉で懇親会を終了した。





パール博士の大東亜悲願の碑

広島県 石川 勝也

広島県のある接骨院の朝の風景

「Aさん今日はどうしちゃったんですか？」
「腰が痛うての～」 「いつから痛いんですか？」
「ピカ（原爆）のときに家の梁が腰に落ちてきて下敷きになっての～、死ぬんか思～たで～」
「そんな古い話じゃ～保険はきかんのんよ、最近何かあったでしょう～？」 「実は植木鉢を動かして痛うなったんよ」という冗談なのか、本気なのか、消せないトラウマなのか被爆者手帳を持った患者さんが、私の接骨院にも毎日多く来られます。

今年も暑い暑い広島夏の夏がやって参りました。広島は長崎と並び世界唯一の原子爆弾による被爆地です。

戦争とは何か、平和とは何か、そして人間とは何か。人類の歴史の中で大きな意味を持つこの土地に住む者としてこの大きく捉えどころのない問題を問うては答え、答えては問い直し、反芻します。

およそ人類の歴史は戦争の歴史でもありました。平和とは何か。平和とは戦争でない状態、戦争と戦争の間、戦閑期のことをいうものでもあるのです。



広島にはまだ多くの被爆者が住んでいます。私の母も被爆者ですし、亡くなった祖父、祖母、叔父も皆被爆者でした。戦前から広島に暮らす家のお墓には必ず昭和20年8月6日から数年の間に亡くなった方の戒名が刻まれています。

ラビダノード・パール博士の名前を聞いてピンとくる人は歴史通です。終戦当時カルカット大学の総長で国際法の世界的権威だった博士は、東京で開催された「極東国際軍事裁判」にインド代表判事として着任しました。パール博士はこの裁判で11人の判事のうちのただ一人、被告全員無罪の判決（少数意見）を下した判事でした。後に博士はこの裁判にふれて「真実を真実として認め、法の真理を適用したまでである。それ以上のものでも、それ以下のものでもない」と語っています。

昭和27年広島市の平和公園を訪れたパール博士は慰霊碑を参拝し「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返させぬから」の碑文をご覧になりました。その後中区小町にある本照寺の住職の求めを快く引き受けられてこの詩を揮毫されました。

激動し 変転する歴史の流れの中に
道一筋につらなる幾多の人達が
万斛の想いを抱いて死んでいった
しかし 大地深く打ちこまれた悲願は消えない
抑圧されたアジア解放のため
その厳粛なる誓いに いのち捧げた魂の上に
幸あれ
ああ 真理よ！あなたはわが心の中にある
その啓示に従って われは進む

1952年11月5日 ラビノード・パール

この格調高い詩がベンガル語・日本語、英語で大きな黒御影石に刻んであります。今もパール博士は、真理追究の姿勢と、真実の歴史と正義を私たちに語りかけてくれています。

茨城県が連覇で2度目の優勝

文部科学大臣杯争奪

第22回日整全国少年柔道大会

後援 文部科学省・東京都・(公財)講道館・(公財)全日本柔道連盟・(公財)東京都柔道連盟・産経新聞社

平成25年10月14日（体育の日）に全国47都道府県から予選を勝ち抜いた強豪48チーム（東京はA・B2チーム）が集結し、講道館大道場において標記大会が盛大に開催され、茨城県が連覇し2度目の優勝を飾った。

開会式の席上で工藤鉄男大会会長は「選手の皆様は、全国47都道府県から予選を勝ち抜いて、この柔道の聖地である講道館で技術と技能を、今日お集まりの皆様にご披露してください。そして、感動と感激をご来賓の皆様にも与えるよう努力してください。選手諸君しっかりと頑張ってお父兄、先生から今日の戦いが、良かったと言われるような試合をしていただくことをお願いいたします」と挨拶した。

今年で3回目の日整全国少年柔道形競技会が同時に開催され、各地区（柔道ブロック）から予選を経て1チーム、計15チームが出場して、技、礼法などを競い合った。



●開会式

〈櫻田文部科学副大臣が祝辞〉

心を養い人間形成に大きく寄与!

〈自由民主党石破幹事長が祝辞〉

人に対する感謝の気持ちを忘れず!

〈産経新聞社企画業務室楠崎室長が激励〉

力を合わせて物事を成し遂げる!

秋晴れの好天気にも恵まれ、全国から選ばれた選手たちは、緊張と不安が入り交じった表情の中にも闘志を燃やし元気よく講道館に入り、開会式が始まった。

木山時雨大会副会長の開会宣言、工藤鉄男大会会長の挨拶の後、来賓として出席された櫻田文部科学副大臣は、祝辞の中で「柔道をはじめとする武道は単に勝負を争うだけでなく、



▲工藤会長

体を鍛え技を磨くとともに、礼儀を重んじ相手を思いやる心を養い人間形成に寄与するもので、柔道を通じて健全な心と体を養っていただきたい」と述べた。続いて挨拶に立った自由民主党石破幹事長は「柔道には二つの流れがあり、相手を倒す殺法と相手を生かす活法があり、活法をやっているのが柔道整復師です。それぞれの地域において皆が健康で幸せに



▲櫻田文部科学副大臣



▲自由民主党石破幹事長

できることを考えているのが柔道整復師です。人に対する感謝の気持ちを決して忘れず、そして自分を見つめ直していい一日にしてください。



▲産経新聞社企画業務室楠崎室長

皆様の健闘を祈ります」と述べた。最後に挨拶に立った楠崎室長は「柔道の聖地講道館で日ごろの練習の成果を存分に発揮していただきたい。頂点を目指すことはチームの一人ひとりが力を合わせて物事を成し遂げようとするのが重要で、その経験は生活する上で大変役に立つと思います。皆さんが怪我をしないように、チーム一丸となって頑張ってください」と激励の言葉を贈られた。

時間の都合上、ご祝辞をいただけなかった来賓が紹介された後、著名人や関係団体などからの祝電が披露された。

前年度優勝の茨城県チームから文部科学大臣杯・大韓杯・産経新聞社杯・モンゴル杯が返還され、前年度準優勝の神奈川県チームから準優勝杯の返還があった。

その後、佐藤正審判長から試合上の注意があり、前年度優勝の茨城県チーム代表の長谷川碧選手による力強い選手宣誓が行われた。

開会式が終了し、形競技会の選手は6階国際部道場に移動、柔道選手は4試合場に分かれて白熱した熱戦が繰り広げられた。

茨城県も連覇達成

第22回大会は、茨城県が神奈川県に続く2県目となる連覇を達成した。前年準優勝の神奈川県は2回戦で兵庫県と1対1になり、代表戦の結果敗れた。前年3位の京都府は3回戦で愛知県に2-0で敗れ、同じく3位の大阪府は1回戦で敗退した。



● 試合経過

〈第1試合場〉

愛知県が勝ち上がり、敢闘賞に徳島県、フェアプレー賞に京都府が選ばれた。

〈第2試合場〉

富山県が勝ち上がり、敢闘賞に福岡県、フェアプレー賞に広島県が選ばれた。

〈第3試合場〉

岐阜県が勝ち上がり、敢闘賞に三重県、フェアプレー賞に福井県が選ばれた。

〈第4試合場〉

茨城県が勝ち上がり、敢闘賞に兵庫県、フェアプレー賞に神奈川県が選ばれた。

〈準決勝〉

準決勝は、第1・第3試合場で行われた。

第1試合場では、愛知県が3-1で富山県を破り決勝に進んだ。

第3試合場では、茨城県が1-0で岐阜県を破り決勝に進んだ。



決 勝





▲ 〈優勝〉茨城県



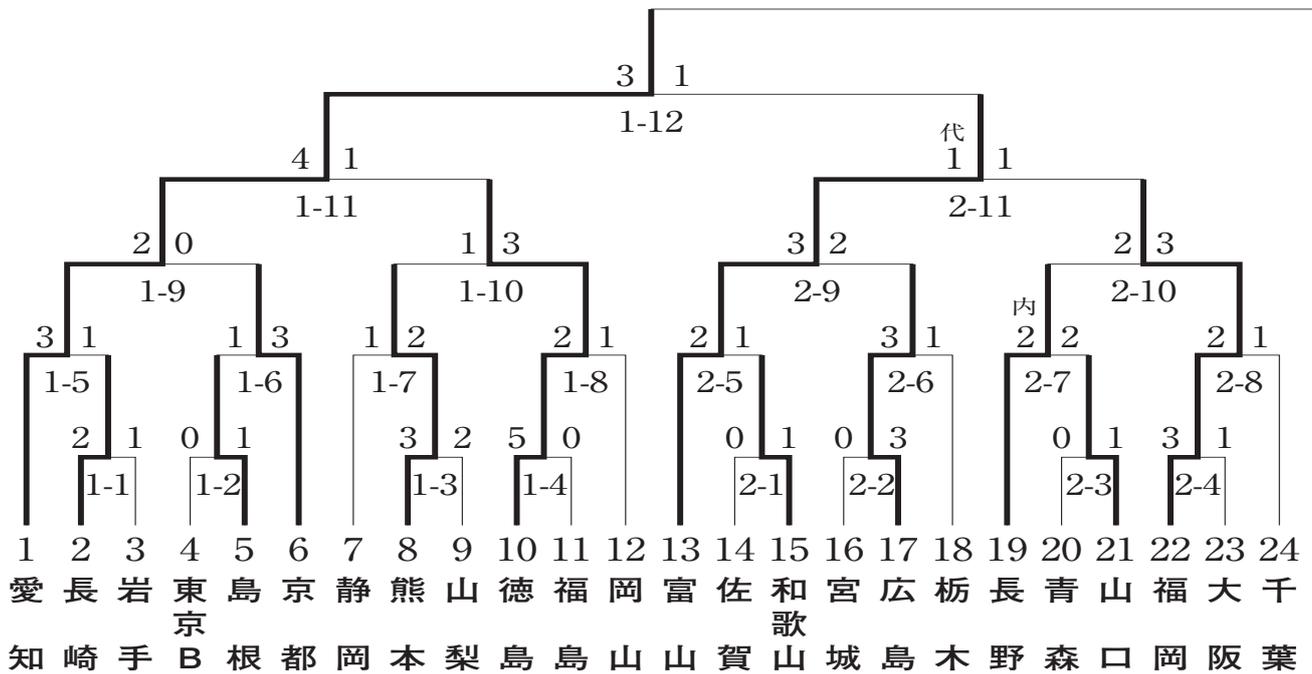
▲ 〈準優勝〉愛知県



▲ 〈第3位〉岐阜県



▲ 〈第3位〉富山県





▲優秀選手賞

● 日整全国少年柔道大会の結果

優勝	茨城県
準優勝	愛知県
第3位	岐阜県・富山県
敢闘賞	兵庫県・徳島県・三重県・福岡県
フェアプレー賞	神奈川県・福井県・京都府・広島県
優秀選手賞	長谷川 碧 (茨城県)
	カフレジオバニ (茨城県)
	竹市 大祐 (愛知県)
	中田 祐大 (岐阜県)
	澤田 智大 (富山県)

〈決勝〉

決勝戦は、第1試合場で行われ、会場が緊迫する中、愛知県対茨城県の戦いが繰り広げられた。白熱した試合は、3対0で茨城県が勝ち、前年に続く連覇となり全国の頂点に立った。

優勝した茨城県には、文部科学大臣表彰と杯を工藤会長が代理で贈られ、引き続き日整会長表彰と杯が贈られた。木山副会長から大韓民国柔道連盟杯が贈られた。また、産経新聞社の楠崎企画業務室長から産経新聞社表彰と杯が授与された。

● 優勝チームインタビュー

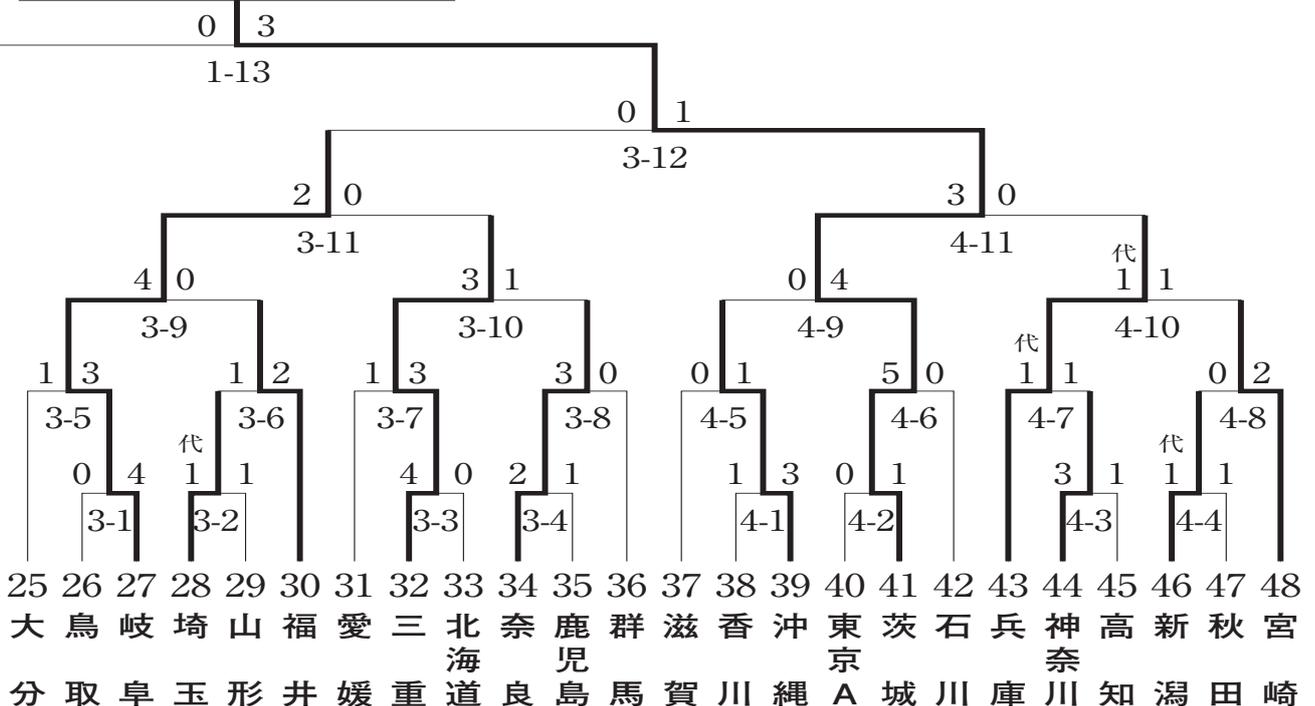
茨城県 眞中 進 監督 (談)

今年は去年の選手は一人しか残っていませんが心配しましたが、コーチの先生と協力して心の強いチームにまとめ上げ、今回皆さんのおかげで優勝することができて大変うれしく思っています。

茨城県 松田 新太君 6年 (談)

今日はちょっとしか勝てなかったけど、皆のおかげで優勝できてうれしいです。

優勝 茨城県



優勝の栄冠は東京都

第3回日整全国少年柔道形競技会

前年と同様、開会式終了後、直ちに6階にある国際部柔道場に移動して、各地区（柔道ブロック）15チームが出場し、第3回日整全国少年柔道形競技会が開催された。

競技種目として、投の形（手技・腰技・足技のみ）計9本、演技は各組1回とし、取・受を一体と見て評価し「形」の技、および「礼法」、「全体の流れ」を採点した。

上位4組（1位～4位）は、7階大道場で少年柔道大会決勝戦の前、4会場で「投の形」演武を披露した。年々レベルアップしている名演武に館内は静まり、終了後割れんばかりの拍手が鳴り響いた。



〈優勝〉東京ブロック



〈準優勝〉中国ブロック



〈第3位〉北信越西部ブロック



〈第4位〉東海西部ブロック

●形競技結果

〈優勝〉東京ブロック

（取）志村 洸太（東京都）5年
（受）久保 麗央（東京都）6年

〈準優勝〉中国ブロック

（取）鎌倉 茂正（岡山県）6年
（受）江口 雅也（岡山県）6年

〈第3位〉北信越西部ブロック

（取）中村 凱哉（福井県）6年
（受）平本 翔大（福井県）6年

〈第4位〉東海西部ブロック

（取）浦上 茜（三重県）6年
（受）徳和麟太郎（三重県）5年

優勝した東京都チームには、文部科学大臣表彰が工藤会長から代理で贈られ、続いて産経新聞社の楠崎企画業務室長から産経新聞社表彰が贈られた。最後に工藤会長から日整会長表彰が贈られた。

●優勝インタビュー

〈東京ブロック〉向井 幹博 監督 (談)

全国のレベルが上がっている中で優勝できたことは大変うれしく思います。これからますます



す切磋琢磨して、試合だけでなく、柔道の魅力を形の中に見つけてほしい。

〈東京ブロック〉久保 麗央君 6年 (談)

1週間前に怪我をして投げる練習はできなかったけれど、流れの練習はしていて優勝できてよかったです。



近畿24年ぶり2度目の優勝

厚生労働大臣旗争奪

第37回日整全国柔道大会

後援 厚生労働省・東京都・(公財)講道館・(公財)全日本柔道連盟・(公財)東京都柔道連盟・産経新聞社

日整全国少年柔道大会に引き続き、午後から行われた標記大会は、全国15ブロック(北信越西部A・Bチーム)16チームが集結し盛大に開催された。全15試合中、内容勝ちが3試合、同点により代表戦が3試合と接戦続きの連続で緊迫した試合の結果、近畿が24年ぶり2度目の優勝を飾った。

●開会式



▲工藤会長

開会式では国歌斉唱、日整会歌斉唱の後、木山時雨大会副会長の開会宣言が行われた。挨拶に立った工藤鉄男大会会長は「日ごろから各地で公益事業に携わっていただきありがとうございます。また、仕事をしながら各ブロックの代表になるために日々鍛錬をし、その技術を持ってこの講道館で、練習の成果を遺憾なく発揮していただきたい。そして、地域の人たちから尊敬され愛される柔道整復師

を目指していただきたい。仕事がありますので無理をせず、怪我に注意をしていただいて、試合が終わったら皆さんで握手をして、健闘を称えあっていただきたい」と述べた。

来賓として自由民主党衆議院議員の平沢勝栄氏、(公社)全国柔道整復学校協会会長の坂本歩氏、学校法人花田学園東京有明医療大学理事長の櫻井康司氏から



▲自由民主党平沢議員

ご祝辞をいただいた。時間の都合上ご祝辞をいただけなかった来賓紹介の後、優勝旗・優勝杯の返還が行われた。



▲選手宣誓する田中寿人選手



● 特別功労者表彰

〈選手として通算15回出場〉

佐藤 裕美(北海道)

神原 和成(広島県)



〈選手として通算10回出場〉

桂 剛(大阪府)

中谷 弘(山口県)

富岡 利仁(香川県)



● 功労者表彰

〈選手・形演武・監督・審判として通算5回出場〉

新井 伸章(埼玉県) 高橋 靖征(埼玉県)

加藤 学(神奈川県) 坂本 周作(神奈川県)

上本 英彦(東京都) 木目沢哲哉(東京都)

津久井佑隆(東京都) 原 豊(東京都)

大友 隆雄(神奈川県) 北村 公(新潟県)

榎本 好根(愛知県) 湊谷 知幹(京都府)

黒田 善治(和歌山県) 石居 謙二(大阪府)

古味 直憲(高知県) 重松 哲夫(福岡県)



● 出場証授与

〈出場選手を代表として〉

下地 秀和(東京ブロック)



● 日整柔道形講習会功労賞

〈通算5回受講〉

小澤 昭夫(埼玉県) 藤崎 満(千葉県)

春日井和幸(愛知県) 妹尾 徹(千葉県)

中村 太(愛知県) 森 正仁(愛知県)



● 会長特別表彰

第4回世界柔道「形」選手権大会優勝

「柔の形」 大森 千草(長野県)

「固の形」 中山 智史(岐阜県)

林 聖治(岐阜県)



●形の演武

「極の形」

(取) 中澤 伸一 六段 (北海道)

(受) 中澤 正 五段 (北海道)



「柔の形」

(取) 真中 進 六段 (茨城県)

(受) 青木 竜也 五段 (茨城県)



「固の形」

(取) 夫馬喜久治 六段 (愛知県)

(受) 春日井和幸 五段 (愛知県)



「柔の形」

(取) 相羽 秀昭 五段 (愛知県)

(受) 森 正仁 六段 (愛知県)



演 武



● 試合経過

〈第1試合場〉

1回戦をともに勝ち上がった中関東と近畿の戦いの結果、2-2の代表戦が行われ、近畿が勝ち準決勝に進んだ。

〈第2試合場〉

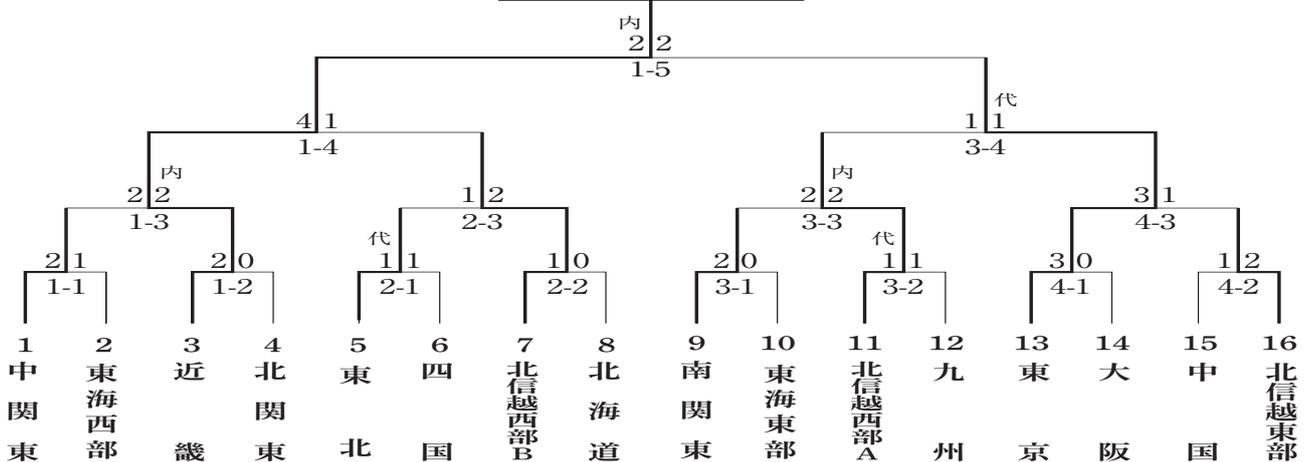
1回戦をともに勝ち上がった東北と北信越西部Bの戦いの結果、2-1で北信越西部Bが勝ち準決勝に進んだ。

〈第3試合場〉

1回戦をともに勝ち上がった南関東と北信越



優勝 近畿



西部Aの戦いの結果、2-2の内容勝で、北信越西部Aが準決勝に進んだ。

〈第4試合場〉

1回戦をともに勝ち上がった東京と北信越東部の戦いの結果、3-1で東京が勝ち準決勝に進んだ。

〈準決勝〉

準決勝は第1・3試合場で行われた。

第1試合場では、近畿が北信越西部Bに4-1で勝ち、決勝に進んだ。

第3試合場では、東京が北信越西部Aと1-1の結果、代表戦が行われ東京が勝ち、決勝に進んだ。

〈決勝〉

決勝戦は第1試合場で行われ、24年ぶりに決勝戦の舞台に上がった近畿と決勝戦常連の東京との戦いとなり、2-2の内容勝ちで接戦を制した近畿が24年ぶり2度目の優勝を飾った。

優勝した近畿チームには、厚生労働大臣旗を工藤会長が代理で贈られ、日整会長表彰と優勝杯が贈られた。続いて大韓杯、モンゴル杯が贈られた。

●優勝インタビュー

近畿ブロック 監督 栗本 建也 参段 (談)

日ごろの業務の努力と、皆さんが一生懸命練習した成果だと思います。ありがとうございました。

近畿ブロック 副将 湊谷 知幹 六段 (談)

やっと勝てたという感じでほっとしています。今回はチーム一つになれたのが勝因だと思います。ありがとうございました。

●日整全国柔道大会の結果

優 勝	近 畿
準 優 勝	東 京
第 3 位	北信越西部B 北信越西部A
優秀選手賞	湊谷 知幹 (近畿) ガンバートルフデレムフ (近畿) 杉本 秀人 (東京) 川口 稔 (北信越西部B) 田中 寿人 (北信越西部A)



▲ 〈優勝〉 近畿



▲ 〈準優勝〉 東京



▲ 〈第3位〉 北信越西部B、北信越西部A



▲ 優秀選手賞

※日整のホームページに日整全国少年柔道大会、日整全国少年形競技会、日整全国柔道大会の決勝戦動画や形の演武、写真スライドを配信中です。ぜひご覧ください。

(注)日整全国柔道大会は会員ページで配信しています。

第37回日整全国柔道大会出場選手紹介



▲北海道ブロック



▲南関東ブロック



▲東北ブロック



▲東京ブロック



▲北関東ブロック



▲北信越東部ブロック



▲中関東ブロック



▲北信越西部Aブロック

第37回日整全国柔道大会出場選手紹介



▲北信越西部 B ブロック



▲大阪ブロック



▲東海東部ブロック



▲中国ブロック



▲東海西部ブロック



▲四国ブロック



▲近畿ブロック



▲九州ブロック

柔道一筋

～1964東京オリンピックから2020東京オリンピックへ～

広島県柔道連盟理事長 東京オリンピック柔道軽量級金メダリスト
中谷 雄英先生に聞く

聞き手 (社)広島県柔道接骨師会会長
広報部長

山崎 健司
石川 勝也

山崎 中谷先生、本日はお忙しい中、我われのためにお越しいただきまして誠にありがとうございました。ちょうど時期的に東京オリンピック招致ということもありまして、この広報誌が出るころには結果も出ているのですが、先生は前回の東京オリンピックで、柔道軽量級で金メダルという大変素晴らしい結果を残されました。広島県としましても全国に誇れることでございます。私も当時小学校6年生でして、テレビで先生のお姿を拝見しまして柔道を志した者として、当時のお話をお伺いさせていただきたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

中谷 はい、分かりました。

山崎 早速ですが、先生が柔道を始められたきっかけとそれはいつごろでしたか。

中谷 小学校6年生のときです。近くの桜幼稚園に道場ができて、そこへ兄が行くようになり、付いて見に行くようになりました。父親に僕も習いたいと申しますと、中学生になってからなら良いと言われましたが待ちきれずに何回もせがみました。クリスマスのときに何か欲しい物があるかと問われまして、柔道が習いたいと申しますと、それならということで、それから習うようになりました。

山崎 先生はいつごろから頭角を現すようになられましたか。

中谷 中学のときも強い部類ではありましたが、1番2番というわけではありませんでした。市内で5番目位には入っていたと思います。県の大会はまだありませんでした。当時

は柔道も野球も盛んでした。

冒険王という漫画雑誌に「いがぐり君」とか、「だるま君」とか柔道の漫画があってそれに影響されたという部分もありました。

山崎 そうですね、私は「柔道一直線」とか「姿三四郎」とかを見ていました。先生は広陵高校から明治大学へ進まれましたね。学生時代の思い出を教えてください。

中谷 高校3年生のときには県で1番でした。当時インターハイは団体戦しかなく、広島県では盈進商業が強くてインターハイには出場できませんでした。私が卒業して個人戦ができましたが当時はまだ無差別でした。それから体重別になりました。

山崎 柔よく剛を制す、という意味では無差別が柔道らしいとも思われますが、そのへんはいかがでしょうか。

中谷 やはり柔道を発展させるという意味では、体重別の方が皆に優勝のチャンスができますからそのほうが良かったと思います。私は高校3年生のときには無差別でも県で1番くらいでしたが、県から4名が国体に行きましたので、熊本県の国体に行きました。広島県は全国的にも上位でしたが2回戦で福岡県と当たりました。プロレスに行った坂口征二君が大將で私は次鋒で出ました。優勝候補だった福岡を広島が破りました。私の相手が久留米商業の橋口という選手でしたが、久留米商業はインターハイで団体戦で優勝していました。そのポイントゲッターだった橋口に私が一本で勝ち、坂口が足払いをすかされて転



【プロフィール】

なか たに たけ ひで
中 谷 雄 英

昭和16年 広島生まれ
昭和36年 広陵高等学校卒業
明治大学入学
昭和38年 モスクワ国際柔道選手権優勝
昭和39年 東京オリンピック柔道軽量級金メダル
昭和40年 明治大学卒業
昭和42年 ソルトレークシティ世界柔道選手権
軽中量級3位
平成11年 文部大臣表彰受賞（体育功労者）
平成15年 藍綬褒章受賞
平成23年 旭日双光章受賞
全日本柔道連盟理事を歴任
現 在 広島県柔道連盟理事長
広島市柔道連盟会長
講道館柔道九段 研究分野は公衆衛生

んで負け、2対1で広島が勝ちました。そのことも認められて明治大学に進むようになりました。

山崎 明治大学へ進まれてからはいかがでしたか。

中谷 山肩敏美先生に東京オリンピックに有望な選手だからという推薦書を書いていただいて明治大学を受けに行きました。先生にはそう書いていただいていたのですが、それが恥ずかしくて、自分ではオリンピックに出られるとは思ってなかったのですから。国体には出ましたがインターハイに出てなかったのですから、全国的に自分がどのくらいなのかが分かりませんでした。その推薦書が

巻物のように墨で書かれたものでして、それを出すのが恥ずかしかった思い出があります。
山崎 オリンピックに出るものだという事で明治大学に推薦されてたわけですか。

中谷 私自身は明治大学に入れたらいいなという思いで受験しました。私がオリンピックに出られるとは、これっぽっちも思っていませんでした。

山崎 それがどのへんから意識されるようになりましたか。

中谷 大学2年生のときに第2次選考でオリンピックの候補選手に選ばれました。全国から軽量級で10数人選ばれていて、その中ではおそらく9番か10番くらいだったと思います。そのとき、岩田兵衛さんという年上の方がいて、その方が軽量級ではオリンピックの代表になるだろうという大方の予想でした。軽量級にもかかわらず日本選手権にも出ておられました。選考試合は第8次までありました。

山崎 その選考試合で勝ち進まれて代表を勝ち取られるわけですが、そのときのお気持ちはいかがでしたか。

中谷 東京オリンピックの前の年にプレオリンピックというのがありまして、優勝はできませんでしたが岩田さんを破って、決勝戦に行きました。決勝戦では重岡選手に負けましたが、そのときに岩田さんの時代は終わったとなり、重岡、松田、私の3人の中から選ばれるだろうということになりました。当時は大学3年生でした。一年間3人で競いました。

1963年（昭和38年）にソ連の選手が日本に遠征にやって来て、軽量級ではステパノフ選手に総嘗めにやられてしまいました。そのとき、私は試合に出なかったのですが、ソ連の選手は手足が長いので、帯取り返しが得意で皆やられました。1964年（昭和39年）の2月にソ連のモスクワ大会に行き、そこで決勝をステパノフと競い、技ありの優勢勝ちで優勝しました。それを評価されてオリンピック代表に選ばれました。

山崎 オリンピック代表に選ばれたときはどういうお気持ちでしたか。

中谷 当時新聞などでは松田選手が有望視されていましてから、私も松田選手が選ばれると思っていました。結局、発表になったら私が選ばれていましたが、私は諦めて大学の寮でテレビを見ていました。知人から「中ちゃんおめでとう、代表に選ばれたよ、ラジオで言っていたよ」と連絡があり、さすがにそのときは涙が出ました。

山崎 サンボ（ロシアの国技）の柔道と日本伝統の柔道ということでは、外国人選手対策として作戦はあったのですか。

中谷 はい、対策はありましてすごく練習しました。練習しましたが余り役にはたたなかった気もしますが、ステパノフに対しては組手を常に有利に戦えました。

山崎 我われが教わりましたのは、ちゃんと組んで一本を取るといふ柔道でしたが、先生のころはもっとそういうものが厳しかった時代でしたか。

中谷 相手もよく組んでできていました。外国人はステパノフは強かったですが、ほかの選手はそうでもなかったです。だからオリンピック代表に選ばれたときは金メダルは取れるだろうという気はしていました。モスクワで実際勝っていましたから。

山崎 オリンピック代表になられて金メダルを取ったということは、先生にとってもやはり大きな転機となられましたか。

中谷 オリンピックで優勝できたので現在の私があるわけで、あのとき負けていたらその時点で柔道を辞めていたか、辞めさせられていたかもしれません。今は国際試合で負けても使ってもらえますが、当時は一回負けるともう使ってもらえませんでした。それだけ選手の層が厚かったのです。

山崎 外国の柔道人口は今ほど多くはなかったようですが、日本に稽古に来ていましたか。

中谷 トップクラスは来ていました。まだ日本の柔道は外国に比べて優位で差がありました。

山崎 勝って当たり前という雰囲気の中でのプレッシャーもあったでしょうが、その中で精神力を保つご苦労もおありだったのではな

いでしょうか。

中谷 オリンピックという大会は大きなものがありまして、何とも言えない口では説明できない雰囲気がありました。

石川 よくオリンピックに

は魔物がいると表現されますが。

中谷 私も普段はあがらないタイプなのですが、武道館に広島からもたくさん応援に来てもらっていましたが観覧席を見るようなゆとりはなかったですね。

山崎 それほど集中していらっしやっただのですね。

中谷 表彰式するとき、畳を回りながら観覧席を見回して応援してくださった方々がやっと分かりました。それまで余裕がなかったのですね。

山崎 国を背負うというお気持ちはおありでしたか。

中谷 負けるという気はないのですが、やはり雰囲気が今までの試合とは全然違いましたから。

山崎 それと、柔道の最初の試合でしたね。

中谷 私がトップバッターでしたから、後に続く者に悪い影響を与えてはいけないということで、絶対に元気のある試合をしないといけないという気持ちはすごくありました。

山崎 団体戦でもそうですが、先鋒がどういう勝ち方をするかで後の流れが全く違ってきますね。

中谷 個人戦でも私がどう戦うかで後に影響するからという気持ちはありました。

山崎 先生の時代では、国を背負って戦うというお気持ちはいかがでしたか。

中谷 それはすごくありました。負けたらもう生きて帰れないみたいな、モスクワ大会にはそんな気持ちで行きました。



山崎 今はそれが希薄になっているような気がします。一回負けてもまた使ってもらえるような。

中谷 あの時代は負けたらもう二度と使ってもらえなかったから、一試合一試合が大事でした。

山崎 集中力が全く違うということですね。オリンピックの試合の中で印象に残っているものを教えてください。

中谷 ステパノフとは準決勝であたりました。合わせ技で一本勝ちしましたが、その試合が一番力が入った試合でした。決勝はスイスのヘンリーでしたが日本的な柔道をしましたから楽でした。勝てる気持ちはありましたが、投げ技の判定は合議となって一本で勝ちました。

山崎 瞬時の判断が審判にも求められますね。当時の監督はどなたでしたか。

中谷 天理大学の松本安一師範でした。もうお亡くなりになりました。

石川 監督は試合中によく声を掛けられましたか。

中谷 試合よりも練習のときに厳しいお声を掛けられていました。

山崎 子供の試合中に父兄の声が大きくなることもよくありますし、監督も指示を出したりしていますが、子供はロボットではないのですから、練習で身に付けたことを出せばいいと思います。試合中は静かだと思いますが、いかがでしょうか。

中谷 今までの声掛けの半分は審判に対して言っている部分もあるかもしれません。

山崎 金メダルが確定して表彰台に上がられるときはどのようなお気持ちでしたか。

中谷 「やっと終わったな。負けなくて良かった、役割を果たせたぞ」という気持ちでした。金メダルを取ったぞ、ではありませんでした。まだ後に試合が3つ残っていましたから、飛び跳ねて喜ぶようなことはできませんでした。

山崎 金メダルを取りその後卒業されて、現役はいつまでなさったのですか。

中谷 三菱レーヨンで28歳までやりました。辞めたというより辞めさせられたといえますか、まだできる気持ちはありましたが、コー

チを勧められました。ああもう駄目なのだなと思いました。そのようなときにドイツからナショナルコーチの要請があり3年間ドイツへ渡りました。

山崎 外国のコーチを務めることに対して周囲の反応はいかがでしたか。

中谷 篠巻選手が日本の無差別で出場し、ドイツからグラウン選手が出てグラウンが勝ちました。左の対策をしっかりとした結果でしたが、当然反発もありました。私は日本の柔道が負けるはずはないと思っていましたから。

石川 スポーツの世界ではよくありますが、日本のサッカーの監督でもそうですが、外国人の方に指導者になっていただくことについてはどうお思いですか。オリンピックはどうしても国別対抗戦となりますが。

中谷 私はやはり日本の選手が勝ってくれと思います。ドイツの監督は韓国の韓虎山（ハンホンサン）という方でした。ドイツは私をコーチとしてきちんと待遇してくれていました。

山崎 そういう意味では先生方の頑張りが、後輩の指導者を外国へ出やすくしたという部分はありましたね。

中谷 私たちがパイオニアでしたからね。しかし、今は日本のコーチが必要なくなってきました。それだけ柔道が世界に普及したといえます。

山崎 嘉納治五郎師範の理念としての、日本の柔道を世界に広める、ということが実践できたということでもあるのですね。

中谷 そうです、喜ぶべきことと言えます。

山崎 その反面漢字の柔道がローマ字のJudoになったといえますか、カラー柔道着のことや新しい黄色い畳ですとか、今までと変わっていく部分もありますね。

中谷 私はそのへんは全く気になりません。国際試合はそうなっていますから。

山崎 ドイツから帰られてからはどうされましたか。

中谷 帰国後は、家業の商売をしながら県柔連の仕事を山肩先生のもとでして、YMCAの道場でも教えていました。

山崎 私も広島に帰って接骨院を開業し、県柔連で審判や救護をさせていただきながら、先輩の先生にいろいろなことを教えていただき、それが私の財産となっています。中谷先生に最初にお会いしまして、お話をしているものやると、何しろ先生は雲の上のお方のようなのでしたから。柔道をするきっかけになりましたのも中谷先生がオリンピックで金メダルを取られたのを見てからですし、今日もこうして気さくにお話していただいて、本当に身に余る光栄で、感謝申し上げます。

全柔連も新しく宗岡正二新会長になりましたが、全柔連の今後をどのように思っていますか。

中谷 やはり改めるところは改めていかなければなりません。実際、暴力はいけないことですから再発しないように気を付けなければなりません。今ブラジルで世界選手権をやっていますが、選手が金メダルをとって活躍してくれることが一番ですね。そうしたらまた新しい日本の柔道が生まれてくるのではないのでしょうか。

山崎 次のリオデジャネイロオリンピックではメダルは期待できそうでしょうか。

中谷 世界選手権でも頑張っていますし、日本の選手も次々と新しい選手が育ってきているようですし、大丈夫ではないでしょうか。男女とも金メダルを3個ずつは取れるんじゃないでしょうか。

山崎 最近の選手には国を代表して出ているという気持ちはどうなのでしょう。

中谷 国を代表するという気持ちよりは、自分が出ているという気持ちが強いのではないでしょうか。

山崎 次の東京オリンピック招致はどう思っていますか。

中谷 私は可能性は強いと思います。経済、治安、大会運営能力とどれをとっても日本は強いのではないのでしょうか。

山崎 最後に先生にとって柔道とはどのようなものでしたでしょうか。

中谷 私の人生の全てですよ。柔道のお蔭で今日の私があるようなものです。

山崎 我われの中では柔道と柔道整復師は切っても切れない間柄と思っていますが、先生の中で柔道整復師はどのようにお思いでしょうか。

中谷 柔道整復師の増加により、接骨院も乱立で困っているとかよく聞きますが、昔はほねつぎの先生のところに行くときすぐ治ると言われていました。柔道大会にも救護に来ていただいています。安心して柔道ができますからね。まあ、柔道と柔道整復師は親戚みたいなものですからね（笑）。

山崎 1964年東京オリンピックの柔道競技金メダル第一号の先生は、広島県にとっても本当に宝のような方です。今もこうして柔道にかかわられながらご指導にあたっていただいています。今後につきましても、柔道ならびに我われ柔道整復師会も引き続きご指導くださいますようお願いいたします。本日は、誠にありがとうございました。



▲左から 石川部長、山崎会長、中谷先生

私たち柔道整復師は 全国各地で活躍しています。

健康づくり(公開健康講座)、スポーツボランティア
防災・救護・介護など

公開健康講座

群馬県

平成25年度生涯学習講習会

リンパ浮腫の治療とケア

平成25年7月26日(日)、午後1時から前橋市「県農協ビル」で標記講習会を開催した。一般公開講座では、群馬県太田市にある太田記念病院看護師、認定リンパ浮腫セラピストの荒井よう子先生を講師に迎え「リンパ浮腫の治療とケア」と題して講演をいただいた。リンパ浮腫に対する理解を求め、現在の治療方法と今後の課題を呈した。

講演要旨

リンパ浮腫とは

人の体の循環には動脈・静脈・リンパ管がある。心臓から出た血液の90%は静脈から再び心臓に戻るが、残り10%の血液成分は毛細血管から周囲の組織間へ漏れ出す。この水分(組織液)を吸収し、再び心臓へ向かって運搬するのがリンパ管の役割である。これにより水分バランスが保たれ、血漿タンパクの平均調整が行われる。水分バランスが崩れると浮腫を発症する。

また、手術・放射線・化学療法(薬)などにより、リンパ管が作為的に障害を受け、リンパの流れが停滞することもある。すると、リンパ管に再吸収されないタンパクの濃度が次第に上昇し、リンパ浮腫の発症を引き起こす。

種類と病期

リンパ浮腫には一次性・原発性と二次性・続発性がある。一次性・原発性では生まれながらの形態異常による運搬機能の低下。二次性・続発性は外科的治療、放射線治療などの後遺症として発症。



▲荒井先生

病期は0期、I期、II期、III期に分類される。

- 0期 リンパ管の輸送に障害はあるがリンパ浮腫が顕在化していない
- 1期 夕方になるとむくむ程度。患肢を挙上することで改善
- II期 患肢を安静にしても改善しないが寝て起きると改善。次第に改善しづらくなる
- III期 圧迫根は残らず皮膚が硬化し角化が見られる。皮膚は肥厚し象皮症などが見られる

治療法

水分バランスを保ち、生体防御を司るリンパは、アルブミンやタンパク成分を多く含んでおり栄養が豊富。そのため皮下組織に停滞すると免疫力が低下し、さまざまな発症を引き起こす。

治療はリンパ液の排出を目的とし、複合的理学療法を行う。

- ①スキンケア（皮膚を清潔にし保湿）
- ②浮腫を健康なリンパ節へ流すリンパドレナージ
- ③弾性着衣、弾性包帯を使用した圧迫療法
- ④圧迫下での運動療法
- ⑤その他、患肢挙上など苦痛にならない程度の日常生活指導

以上の①～⑤を患者の様子を見ながら流動的に行う。決して無理をさせず、苦痛などないよう浮腫の緩和に努めることが必要。

患者のケア

早期発見早期治療が以後の生活のQOLを左右する。専門外来の受診を勧め、診断と適応禁忌を確認して治療を受けるのが理想である。またリンパ浮腫は一生続くため、心のケアが重要になる。治療することを諦めないようにサポートし、辛いことや我慢することはやめて、弾性着衣をつけて適度に運動を続けながら、上手にリンパ浮腫と付き合うことが大切である。

予防としては日常生活で注意をする程度で、これといった確定的な方法があるわけではない。ただし、日常生活指導をする価値はあるので、体重の管理や姿勢、気圧の変化、左右の足の比較などさまざまな点に注意を払うことは無駄ではない。

（広報員 永井 毅）

愛知県

第1回アスレチックトレーナー研修会

本会は今年度から、事業部の中にアスレチックトレーナー委員会を新設した。アスレチックトレーナーの語義は、スポーツ現場で選手が受傷したときの応急処置や傷害の評価から復帰までの手順を考えたり、傷害を予防したりするために働くスタッフの一員と定義され、現在ではスポーツ現場に限らず、高齢者の健康づくりなどにも活躍の場が広がっている。

本会は以前より、県柔道連盟をはじめさまざまなスポーツ団体より、選手の救護やケアの依頼を受けて会員を派遣してきた。昨年の公益社団法人移行によりその意義はますます重要となり、柔道整復師がスポーツ活動の支援体制の一

角を担い、会員が積極的に参加し貢献できるように必要な知識と実技を習得することを目的に、事業部長を委員長とし、その他3名の委員から構成されるアスレチックトレーナー委員会を立ち上げた。

平成25年4月18日(木)、会長・副会長同席のもと、第1回会合を開催し今後の方針を検討した。その結果、8月25日(日)、第1回アスレチックトレーナー研修会が本会講堂にて以下の演題で実施された。講師は経験豊富な委員会メンバーが務めた。

1. 足部傷害のテーピング法 井原正晴委員
2. 柔道場での救護活動 相羽秀昭委員

足部傷害のテーピング法では、競技前あるいは競技中に痛みを訴えてケアを希望する選手に対して、どこが痛いのかをしっかりと見極めて素早く処置するといった迅速な対応が求められると前置きし、使用するテープの選択やテーピングテクニックを説明したあと、足関節や足底アーチ保持のための固定を実際にモデルを使って解説した。最後に「試合をよく観察することが重要である」と述べた。テーピングをした選手が十分パフォーマンスを発揮できているかをよく観察することで、自分が施したケアが正しかったかを把握できるからである。また機会があれば競技後にも、その選手にケア後のコンディションを聴いておくことも大切だと結んだ。

柔道場での救護活動では、主審が救護員を呼ぶジェスチャーを含め、あらかじめルールを熟知することが大切だと述べた。試合中の医師による整復や、選手の依頼による診察や手当ては



▲実技指導

棄権負けとなる。一方、主審の指示で爪を切るのを手伝う場合や粘着テープで出血を覆う場合は棄権負けとならない。ただし出血の場合、同部位の再出血処置は2回までとされているので、



▲足部傷害のテーピング法

棄権負けとにならないように完全に止血しなければならぬ。また脳振盪についてもその対処に言及した。

会場は220名の聴講者（うち勤務柔道整復師19名）で埋め尽くされ、活発な質疑応答が交わされた。昨年4月の公益社団法人移行によって、救護ケアの依頼に対してますます充実した活動が求められる。会員の資質も高めていかなければならぬ。そういう意味でこのたび始まったこの研修会の意義は大きい。

（広報員 長谷川貴一）

兵庫県

平成25年度スポーツ科学講習会

例年開催している標記講習会が、兵庫県柔道整復師会館において下記日程で行われた。

- 平成25年6月9日(日) AED講習会
- 平成25年7月28日(日) 日本赤十字救急法講習会
- 平成25年9月8日(日) 「肩関節の機能解剖からみた疾患のとりえ方とその診かた（評価）」

AED講習会

「心肺蘇生法国際ガイドライン2010」に沿ってCPRおよびAEDを使用した心肺蘇生法の説明と実技が行われた。当会では、毎年開催され、

緊急時に備え繰り返し受講することを促している。

日本赤十字救急法講習会

前半は、赤十字救急法の総論から各論まで説明があり「急病者の手当」の救急法を実践する際の心得や基本についての講義であった。後半は「きずの手当」「骨折の手当」の基本について解説があり、応急手当の三角巾を使用した実技指導、担架や毛布を使用した傷病者の搬送法が実演された。

「肩関節の機能解剖からみた疾患のとりえ方とその診かた（評価）」

講師に甲南女子大学看護リハビリテーション学部理学療法学科准教授西川仁史先生を迎え、スライドを交え興味深い講義が行われた。

（広報員 本田 崇）

大阪府

第3回府民健康づくり講座

—『ストレッチ』その目的と効果—

“こんなストレッチあるの!?”

平成25年9月14日(土)、午後3時から大阪柔整会館5階大ホールにて標記講座が開催された。

NPO法人日本ストレッチング協会公認インストラクター本会附属整骨院院長橋本貫次郎先生が講習を行った。

ストレッチと聞けばスポーツ時の「ウォーミングアップやクールダウン」という声が聞こえてきそうだが、実はもっと大切な目的と効果がある。

運動不足による筋肉の硬さに加え、関節の柔軟性は年齢とともに低くなる。

柔軟性が低下すると筋肉が硬く伸張性が乏しくなり、頸部捻挫や腰部捻挫、はたまた関節痛を引き起こすことにもなりかねない。

ストレッチにより関節の可動域を広げて柔軟性を高めることは、運動能力の向上と健康的な日常生活を送るためにとっても大切なことである。

ストレッチにはいくつかの種類があり、今回はスタティックストレッチといわれる体を静止させ、反動を使わずに関節の可動域を段階的に増やし、無理のない程度に筋肉が伸ばされた状

態を保持する方法、コンプレッションストレッチといわれるストレッチしたい筋肉の部分を圧迫して行う方法、動きながら柔軟性を高めていくダイナミックストレッチの3種類の方法を実習した。

橋本先生からはスタティックストレッチをするとき、手の位置を上方・中間・下方と角度を変えることで、より効果的にストレッチが行えるちょっとしたコツや、基本姿勢としてリラックスし脱力できる安定した状態でストレッチを行うことなどを教えていただいた。

一般府民で参加の女性は「ストレッチの仕方を具体的に説明いただきながら実習できて大変勉強になりました。家に帰って早速復習します」と満足そうな笑顔で感想を述べられる方もいた。

府民健康づくり講座は毎年4回実施される。これからも府民の皆様のニーズに応える講座を実施できるよう尽力していきたい。



◆ストレッチの指導



(広報員 山田 豊)

防災

栃木県

栃木県・足利市総合防災訓練

日本赤十字社栃木県支部 接骨・整骨災害救護奉仕団

毎年9月に行われている栃木県防災訓練。

本会で運営する接骨・整骨災害救護奉仕団は毎年参加していますが、今年度の活動の様子をご紹介します。

平成25年9月1日(日)、気温37℃に迫る猛暑の中「足利市渡良瀬運動場」で開催された防災訓練は、私たち柔道整復師や当会にとって非常に意義深いイベントへ成長した。

本会は平成12年から「接骨・整骨災害救護奉仕団」として赤十字と協力し、栃木県の開催する防災訓練に参加。以来、毎年参加を続けてきたことで顕著な結果を示し、県知事ら行政組織にも「柔道整復師会の活動は、非常に頼もしい」との認識を得ている。

救護訓練概要

傷病者救護訓練では、あらかじめ設定された

9人の傷病者(いずれも骨折・脱臼を想定)を応急手当し、救護テントへ搬送というシナリオだったが、イレギュラーな指示や要求にも的確に対応し、柔道整復師の能力の高さを示した。

救護訓練レポート

午前9時会場の足利市に集合、日赤のユニフォームに着替えて「いざ出陣」。県内に発生した大災害の想定での訓練開始となった。

5組10名の救護班を編成し、得意分野である中等度症の骨折と脱臼の傷病者9人を担当することになった。

訓練時間は約20分、救護班1組が2人の傷病





▲鎖骨骨折の整復



者を担当するので、傷病者一人につき10分以内に応急手当てを完了させなければならない。10分以内…一見短いようだが、普段使い慣れた包帯やシーネでの処置なので、私たちにとってはほんの数分でできてしまう作業である。しかし、今回は訓練であると同時に、県民・市民の防災意識の高揚を図ることを目的としているため、一般の方へ分かりやすいように「ゆっくり・ていねい」をモットーに訓練に臨んだ。

鎖骨骨折、肩関節脱臼とも、整復後にデゾー法を用いて固定。デゾー法の利点は、しっかりと固定ができることであり、三角巾を使用しないため、材料の節約になる救護向けの包帯法となる。何より他団体の救護員にインパクトを与えることができた。四肢の骨折にも、シーネと包帯を使い応急的な固定を行い、作業を完了した。

その後、傷病者のトリアージ（*注1）が行われ、赤十字社の設置した救護テントに負傷者を搬送し、訓練終了となった。

今回、訓練の救護班10名は開催地ということもあり、足利支部の会員が担当した。赤十字社の担当者や参加経験豊富な団員からも「今回の訓練は本当に良かった」と、称賛の声があった。

高評価！で年々期待度上がる

訓練会場において当会奉仕団の行った事業は3種。メインは日赤栃木県支部やその所属奉仕団らとともに『傷病者救護訓練』。昨年度から地元医師会も加わり、より災害現場での実状を意識した訓練となる。

もちろん訓練には『想定される状況』がシナリオとしてあるが、参加団の横断的な連携打ち合わせは存在せず、現場では突然の要求や想定外の状況が発生するが、そういった事態にどのように対処し連携していけるかも大切な経験となり、実際の災害時に役立つこととなる。

レポートにあるとおり、非常に柔軟な対応ができ、周囲の評価も高かった。

昨年からは栃木県の主導する『災害医療連携協議会』においても、私たち柔道整復師の活躍が注目されており、担う役割は確実に大きくなってきている。

今後さまざまな状況に対応できるよう訓練の幅を広げ、機会を増やしていくことが重要であろう。

PR活動の主役『無料骨密度測定』

骨密度測定ブース（写真）で測定した人数は219人となり、猛暑の中開催されたイベントとしては十分な成果を挙げたといえる。

同時に行われた学術部による『骨密度と骨折』の相関を探る調査でも、貴重なデータが収集され来年度発表される論文に期待が持てる。

猛暑で屋外の測定では、携わった会員の負担は想像以上であったことと思うが、バイタリティあふれる対応で、訪れた皆さんの印象に深く残ったことと思う。

単に『骨密度を測定した』だけではなく、私たち柔道整復師（接骨院・整骨院）への信頼を



高めることにつながっている。参加された皆さん。大変お疲れさまでした。

認知度調査事業

ここで行われた「柔道整復師認知度調査」も回を重ねて行くことが「接骨院・整骨院」の良いPR活動でもあることを認識していただきたい。

調査の結果は来年度の栃木県公衆衛生学会において発表の予定だ。

注1：トリアージとは、災害現場等で救護や手当での優先度を決定する振り分け作業のこと

(広報員 塚原 剛)

千葉県

第34回九都県市合同防災訓練・ 千葉県会場訓練

平成25年9月14日(土)、9月半ばになっても今夏の猛暑を思わせる厳しい暑さの中、銚子市千葉科学大学前および隣接する銚子マリーナにおいて、130の参加機関・約5,000人の参加人員で、本訓練が大規模に行われた。

訓練想定

想定は、銚子沖を震源とするマグニチュード6.8の地震が発生、銚子市では震度6強を記録するとともに、建物や道路が損壊、電気・ガス・水道などのライフライン機能が一部麻痺している。またこの地震の発生により「千葉県九十九里・外房」地域には、大津波警報(高さ10m)が発令され、13時00分、銚子市潮見町に高さ8mを超す津波が押し寄せ、海岸付近一帯で家屋や車両が巻き込まれたほか、流出した家屋から火災が発生するなど甚大な被害となった。

訓練方針

訓練方針は住民相互、防災関係機関などとの緊密な連携・協力、公的機関の広域応援による「自助」「共助」「公助」を主眼とした実践的訓練を実施した。

更に、銚子市での甚大な被害が予想される実災害を想定した訓練を実施するとともに、地域住民が多数参加した初期対応訓練など、新しい

訓練を導入し実施した。

また、啓発の充実・強化を図り、地域防災力の向上や防災意識の醸成を図った。

実際の災害現場さながらの訓練

被災現場に到着した警察・消防・自衛隊は航空機や車両により被災情報の収集と避難広報を行うとともに、中層の建物から梯子車での救助や、高層建物の屋上や海上からは、ヘリコプターをホバリングさせての被災者を90人救助、押し流された家屋などに対しては、災害救助犬などと連携をした捜索、転覆した車両から特殊救助器機を使用しての救助活動を、実際の災害現場さながらに実施した。

本会会員の活躍

本会応急救護チームは、千葉県および銚子市から要請を受け銚子市が設置した応急救護所(中等症・軽傷)に参集し、各機関と連携し、1名がトリアージに参加し、他の会員は骨折・脱臼・捻挫・打撲などの負傷者に対して応急救護処置を施すとともに、必要に応じ医師との相談の上、後方医療機関に搬送するなどの支援活動を行った。

参加した本会東部支部会員は、日ごろの業務



▲本会応急救護チーム



▲会員による応急処置

を生かし素早くかつ的確に処置を行っていた。

東日本大震災の記憶がまだ鮮烈に残り、将来日本列島で更なる大災害の発生が懸念されている今、業界の社会的好印象の認知度を高めるためにも、会員一人ひとりが災害救助のスキルアップを図り、社会貢献に備えるべきと考える。

(広報員 渡辺 勇)

愛知県

各地で防災訓練に参加

防災の日にあたる平成25年9月1日(日)、愛知県各地で防災訓練が実施された。災害救護の協定を結んでいる愛知県・名古屋市・岡崎市と、地域独自の取り組みである名古屋市天白区の4自治体で25名の会員が参加した。

毎年行われる愛知県総合防災訓練は、今回は稲沢市との合同で行われた。愛知県の最西端にある木曾川左岸のサリオパーク祖父江に、愛知県や稲沢市・自衛隊・県医師会・日赤愛知県支部など77機関の職員やボランティア・地域住民など約2,800人が集まり大規模に行われた。本会も会長・副会長・事業部長・支部会員ら総勢10名が参加した。

マグニチュード9の南海トラフ巨大地震が発生し、稲沢市内で震度6強の揺れによる甚大な被害が発生したとの想定で、応急救護所で担架搬送などの医療救護活動を行った=写真。また市内6小学校の5・6年生約300人に、ペットボトルや週刊誌・レジ袋、シーツ・衣服など身近な物を利用しての応急救護指導と担架作りの体験実習を、1回約20分で4回行った。

名古屋市では「なごや市民総ぐるみ防災訓練」が、基幹区の一つである熱田区の市立野立小学校で行われ、副会長と事業部員、支部会員ら合わせて5名が参加した。日曜日にもかかわらず2学期の始業式として児童たちも登校しそのまま地域住民とともに見学した。会員は、災害伝言ダイヤルを紹介するNTT西日本や、AED・心肺蘇生法の講習を行う日赤など4団体とともに体育館にブースを設け、汗だくになりながら、身近な物を利用した応急救護や担架作りを集まった住民らに説明したり実践してもらったりした。

岡崎市防災訓練には支部会員5名が参加。会場の一つである市立六ッ美中部小学校グラウンド

で住民40人に、身近にある材料を用いた応急救護の実技指導を行った。特にレジ袋を使った提肘法は、住民のみならず消防団や婦人自主防災クラブの方々にも好評で、多くの質問が寄せられた。

名古屋市天白区では植田南小学校に13機関が集まって実施され、支部会員5名が参加した。グラウンドに設置したブースで前腕骨折と下腿骨骨折などを想定して、やはり身近な材料を使った応急救護を模擬患者さん40人に対して2回に分けて実施した。模擬患者さんが熱心に取り組むため、会員も気合いを込めて活動した。

事前の8月27日には、各地域の参加者や担当者ら20名が会館に集まって、応急救護や担架作りの手法を実際に練習して当日に臨んだため、どの地域でも統一した練度の高い活動ができた。



(広報員 長谷川貴一)

鳥取県

鳥取県との災害協定締結

鳥取県との災害協定を締結することになり、平成25年3月22日(金)に「災害時における協力に関する協定締結式」が、鳥取県知事公邸第1応接室で行われ、野坂会長・岡村副会長・山本

理事の3名が参加し、平井伸治鳥取県知事との
協定書に署名した。

協定に伴い、会員の緊急時の対応について再

確認するため、救急救命士を招き、応急処置の
講習会を開催する予定である。

(広報員 佐々木浩一)

少年柔道大会

北海道

第36回北整柔道大会 第22回北整全道少年柔道大会 第3回北整全道少年柔道形競技大会

平成25年8月4日(日)、室蘭市体育館にて、
標記大会が盛大に開催されました。

萩原正和大会長の挨拶では全道各地から参加
された選手、監督・指導者、ご家族の方々およ
び北海道柔道連盟の先生方へ感謝の意を述べま
した。

はじめに第22回北整全道少年柔道大会が全道
11ブロック25チームで行われ切磋琢磨した試合
が続く中、決勝は前年度優勝の直心館苗穂柔道
少年団を僅差で破った十勝選抜A(遠藤俊春監
督)が優勝して日整全国少年柔道大会出場の切
符を手に入れました。

続いて全道より8組16名の出場により第3回
北整全道少年柔道形競技大会が行われました。
出場選手のキレのある息のあった形が披露され
た結果、様似柔道少年団の金子隼人選手(取)、
中川泰選手(受)が優勝して日整全国少年柔道
形競技会への連続出場となりました。

午後からは第36回北整柔道大会が開催され、
萩原正和大会長の挨拶では「我われは柔道整復
師であります。冠に『柔道』がついている以上、
柔道の精神に則って『相手を敬う・礼儀作法・
痛みを分かちあう心』をモットーに活躍してい
るはずです。その精神を大事にしながら怪我を
しないように頑張ってください」と述べました。

試合は教え子や家族が見守る中、紅白団体対
抗戦が行われました。結果は紅軍7勝・白軍4
勝で紅軍が優勝杯を手に入れました。

続いて個人トーナメント戦が行われ20~30代
の部は石倉正大選手(札幌ブロック)、40代の
部は鹿又秀之選手(北見ブロック)、50代の部
は佐藤克広選手(旭川ブロック)が接戦を勝ち

抜き優勝を手に入れました。また、名誉会長賞は
石倉正代選手(札幌ブロック)に、二瓶英雄賞
は尾崎哲之選手(北見ブロック)に、優秀選手
賞は高橋一夫選手(札幌ブロック)、草原克久
選手(札幌ブロック)、山本良太郎選手(函館
ブロック)、遠藤俊春選手(十勝ブロック)、葛
西誠志選手(北見ブロック)に贈られました。

平成25年10月14日(月・祝)に講道館で開催
される日整全国柔道大会には、各年代の優勝者
に高橋一夫選手(札幌ブロック)、西尾義裕選
手(北見ブロック)が加わり出場します。代表
選手の皆様におかれましては全国大会でも力と
技を発揮して、ご活躍されることをご祈念いた



◆試合風景



しております。

(広報員 高山訓正)

和歌山県

第4回近畿少年柔道大会

平成25年7月28日(日)、和歌山県立武道館において、標記大会が開催された。

大会に先立って日整全国少年柔道形競技会に出場する和歌山県滝川柔道場の中山結夢さん、尾崎功慎君による「投の形」の演武が行われた。その後、近畿ブロック各地から集まった少年少女による熱戦が繰り広げられた。

試合結果

- 4年生の部 優勝 三浦幸輝(滋賀県石山塾)
- 5年生の部 優勝 常陰司竜(兵庫県社柔道少年団)
- 6年生の部 優勝 大門尚弥(奈良県豊徳館野村道場)



▲元気に選手宣誓

(広報員 出崎素之)

兵庫県

第29回兵庫県柔道整復師会少年柔道大会

平成25年7月7日(日)、標記大会がグリーンアリーナ神戸で開催された。

大会は、県内各地の柔道教室や道場から、男女小学生127チーム609名が高学年70チーム・低学年57チームに分かれ、トーナメント形式で行われた。

開会式後、試合に先立ち参加児童による「投

の形」の演武が披露され、その後、監督やチームメイト、家族の声援を受けた熱戦の開始となった。

高学年の部決勝は、昨年優勝の「社柔道少年団」と初優勝を狙う「龍野若竹会」の対戦となり、「社柔道少年団」が連覇で8度目の優勝を勝ち取った。低学年の部決勝は、今回で3年連続となる「二見少年柔道クラブ」と「広畑柔道教室」が対戦し、今年は「二見少年柔道クラブ」が昨年の雪辱を果たし2度目の優勝を飾った。

その後、日整全国少年柔道大会に出場する兵庫県代表選抜メンバーを決める個人戦が行われ、4年生 所谷一平君(三日月広道館)・5年生 山尾直大君(将祥柔道館)と河田征剛君(神刑Jr柔道クラブ)・6年生 福田大晟君(二見少年柔道クラブ)と毛利允也君(姫路中央柔道教室)の5選手が、兵庫県代表選抜チームとして10月に講道館で行われる日整全国少年柔道大会の代表に選ばれた。



▲代表選手

大会結果

高学年団体

優勝	社柔道少年団(東播地区)
準優勝	龍野若竹会(西播地区)
第3位	兵庫少年こだま会(神戸地区)
第3位	姫路中央柔道教室(西播地区)

低学年団体

優勝	二見少年柔道クラブ(東播地区)
準優勝	広畑柔道教室(西播地区)
第3位	伊丹土曜柔道教室(阪神地区)
第3位	黒田庄柔道少年団(東播地区)

(広報員 本田 崇)

鳥取県

日整全国少年柔道大会鳥取県予選

標記の大会を平成25年7月14日(日)に鳥取県倉吉市の倉吉武道館で開催した。

少子化や子供たちの柔道離れにより、年々参加人数が減少してはいるが、選手たちは皆、一生懸命日ごろの鍛錬の成果を発揮し、熱戦を繰り広げた。

試合結果

4年優勝 松本涼祐

5年優勝 内海瑛作 準優勝 牧浦太陽

6年優勝 新井匠 準優勝 松本拓磨

以上の5名が鳥取県の代表として10月14日講



▲代表選手

道館で行われる全国大会に出場する。

出場選手の活躍を期待している。

(広報員 佐々木浩一)

ボランティア・その他

神奈川県

災害現場のようでした

「富士登山レース」「日本山岳耐久＝ハセツネ」「キタタン」の3大レースとして定着した、「北丹沢山岳12時間耐久トレイルレース」＝「キタタン」も今回で15回目の開催でした。エントリー2,100人超、当日1,763人の出走者、完走者は男性1,366人、女性143人、合計1,509人、完走率85.53%でした。

本部救護所には、トレランドクターとして著名な福田医師、第1CP(チェックポイント)神ノ川ヒュッテには地元診療所小林医師の2名の医師の指導を受けつつ軽度擦過傷から熱中症、筋疲労による挫傷、全身けいれん、骨折、捻挫などさまざまな症状で大勢の人数に対応をいたしました。1名ですが重篤な脱水症状のためヘリコプターによる救助搬送も行いました。第2CP神ノ川園地でも本部派遣救護員が架設テントで待機処置を行いました。処置人数、対象傷病など災害現場のようであったとの報告でした。

平成25年7月7日(日)、梅雨明け最初の日曜日、山間部なのに気温34.4℃。朝5時30分の夜明けとともに続々と集結するランナーたちに、

スタート前健康チェックの呼び掛けを行いながらの準備から、夕刻までの片付けまで全く休む間のなかった“12+2=14時間耐久救護活動”に参画した相模支部員8名の会員にはお疲れさまでした。本会救護派遣訓練を兼ねて湘南支部兼子会員と下山相模支部長がスーパー救護で全行程を走破いたしました。2名は水、あるいはアメ玉などのほかにテーピング、包帯、湿布などの衛材を持って、傷病者に声を掛けつつ走りました。ある意味選手より練習など過酷な調整をしておいての参加ではないでしょうか。また、第3救護拠点には本会広報部員森会員と横須賀支部から増川会員と八ッ橋勤務柔道整復師に赴い



▲救護活動

ていただきました。相模支部員ならびに他地域の会員には早朝・遠路の参加ご苦労さまでした。

平成25年8月25日(日)小田原市(雨天中止)、8月31日(土)川崎市、9月1日(日)相模原市、9月21日(土)には9都県市総合防災訓練「ビッグレスキューかながわ」が平塚市で開催され、それぞれの支部員が参画活動を行いました。このように県下各地で柔道整復師の訓練参加がなされておりますが、訓練ですからシナリオに沿った行動です。実際の災害現場は今回の北丹沢山岳レースのように過酷な救護員の“耐久救護活動”が要求されるものと想定されます。

今回の本部派遣救護には横須賀・藤沢からは神奈川県北西部、山梨の県境約90数kmの地点に赴いて活動していただきましたが、実際の災害現場では被災地の会員は自宅または自院の作業で救護活動はできないものと思います。従いまして、被災地から離れた柔道整復師が応援救護活動を行う状況になります。

その意味におきましても今後の「ビッグレスキューかながわ」などの参画には対象支部の会員とともに本部派遣の救護員として活動する会員の募集も必要だと思えます。また、今後は救護員の派遣とともに衛生材料や食糧・飲料などの後方支援をする活動も想定して訓練を行う必要性も考えております。

(広報員 白鳥輝夫)

石川県

草刈奉仕活動ボランティア

チャレンジ・マイハート草刈り奉仕活動が平成25年8月18日(日)、午前6時から野々市市社会福祉法人「サニーメイト」で奉仕活動が行われた。早朝から日差しの強い中、会員、家族計26人と施設職員が参加。会員たちはそれぞれが鎌や草刈り機などを持参し奉仕活動に汗を流した。タオルで汗をぬぐい、腰を伸ばしながらの作業だったが、施設の方々や会員同士で会話を楽しみながら活動はスムーズに進められ約1時間半で作業は終了した。



▲参加者

今年で14年目となる草刈り奉仕活動だが、会員と施設の方々との交流も図れ、充実した作業になり、終了後には夏の青空の下、参加者全員の愉快的な笑い声が響いた活動となった。

(広報員 佐藤裕之)

島根県

島根大学医学部解剖実習見学

平成25年6月24日(月)、島根大学医学部(出雲キャンパス)において、大谷浩島根大学医学部長(解剖学教授)の指導のもと、島根県柔道整復師会の会員有志が集まり解剖実習見学を開講いたしました。

はじめに解剖実習を見学するにあたってのオリエンテーションがあり、「島根大学医学部解剖実習に使用しているご遺体は、島根大学の献体篤志会である『有終会』会員の尊いご意志と、ご遺族の方々のご理解とご協力によって提供されていることを十分理解し、敬意と感謝の気持ちを忘れずに実習に取り込むこと」と説明を受けました。

こういった高い志で善意あるご協力者の方がおられて初めて医学の進歩につながっているのだと改めて思い至ることができました。

そして実習室に出入りするときには必ず礼をし、黙とう。ご遺体に対する礼節を重んじる姿勢には頭の下がる思いでした。

この解剖見学は、ご遺族の方の心情を考え、守秘義務があるとの説明を受けておりましたので、内容に関しては詳しく説明することができません。最初は緊張の面持ちで遠巻きに様子を

拝見していただけてですが、学生の方と一緒に献体に触れながら見学が進むにつれて緊張感も少しほぐれました。医学部の先生方や学生の方にいろいろな質問を投げかけたり、時には質問を受けたりと、とても普段では体験できない有意義な時間を過ごすことができました。

普段は医学書の写真や図説などでしか確認できなかった筋肉の起始・停止や関節、靭帯、神経など細かいところまで触れて勉強することができ、今まではイメージとしてしか捉えられることができなかったものが、実際に触れて確認できたということがこの上ない体験となりました。

1時間半という限られた時間の中で十分に満足された様子の方もおられましたし、あっという間でまだまだ学びたいという様子の方もおられました。

今回の解剖実習見学をさせていただくにあたりまして、ご尽力をいただきました医学部の先生方、島根大学関係者の方、そしてご遺体を献体していただいたご遺族の方、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

私たちはこの体験を生かして今後の施術に生かしていきたいと思えます。



(広報員 井戸内 修)

広島県

はつかいち縦断みやじま国際 パワートライアスロン大会2013

今年も標記大会が平成25年6月23日(日)に開催されました。今年のキャッチコピーは「挑戦の先に待つ人がいるから…」。

スタートラインは世界遺産厳島神社の秀麗な



大鳥居。多くの観客が大鳥居の対岸付近に集まります。勇壮な和太鼓が鳴り響く中、定時の午前9時、鉄人レースの幕は切って落とされました。

大鳥居から対岸の大野までスイム2.5km、大野から廿日市、佐伯、吉和エリアの狭い林道を走る高低差約850mのバイク55km、標高700m地点から900mまでアップダウンの激しいラン20km(リレー22km)、トータル77.5km。距離としてはミドルタイプですが、海拔0mから標高900mまで駆け上がる激しい高低差と、コースのほとんどが上り坂という日本でも屈指の過酷な大会です。それだけに選手の体力の消耗は相当なものがあります。

沿道のボランティアと市民の声援を受けてゴールを目指して駆け抜けて行くアスリートの姿は神々しくも誇らしく、苦しみの後の喜びに向けてただひたすらに走り続けていました。参加する人も、沿道で観戦する人も、目前で展開されている鉄人の躍動を目の当たりにして、それぞれの感動を覚えたのではないのでしょうか。

今大会も本会は協力団体として参加しました。従来どおりのゴール地点クベレ吉和での選手に対するアフターケアコンディショニング、ドクターカーへの外傷の緊急対応担当柔道整復師としての帯同に加え、特筆すべきは、今回ゴール地点にある佐伯地区医師会による医療班ブース横にテーピングコーナーが新設され、本会の柔道整復師を派遣し活動の場を広げることができました。本会チームの本大会における役割と期待が大きくなっていると思えました。

この過酷なコース設定の鉄人レースを終えた

アスリートの疲労度たるや相当なものがあります。この大会は過酷だけれどもアフターケアの充実度はどの大会にもないものがあるとの評価もいただいています。レースの緊張から開放された後、クベレ吉和の温泉で疲れた体を癒し、アフターコンディショニングとしてストレッチ・徒手療法・テーピングなどの施術を行うことは、アスリートには大変好評を博しており、私たちの持てる技術が大いに生かされていることといえます。施術の後のアスリートの「ありがとう」がまた私たちのアスリートに対する「ありがとう」でもあったのです。

今後も柔道を始めとして各種スポーツイベントに積極的に取り組んでいこうと思います。

(広報員 石川勝也)

福岡県

飲酒運転撲滅宣言県内施術所の一括登録が新聞に掲載

福岡県では、飲酒運転による事故の発生件数が平成22年に全国ワーストワンとなったことを受け、平成24年4月から全国初となる罰則付きの「福岡県飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例」が施行された。

この条例が施行されたことによって、飲酒運転による事故は大きく減ってきているものの、今なお飲酒運転による事故が後を絶たず、県は更なる運動の拡大を図っているところである。

そこで、本会もこの取り組みに賛同し、会員621施術所の「飲酒運転撲滅宣言書」を取りまとめて提出する運びとなった。

そして、平成25年6月26日(水)午前10時から、福岡県庁副知事室において、担当課である福岡県新生活安全課を通じ飲酒運転撲滅宣言書授与セレモニーが開催され、宣言書が松岡会長から海老井悦子副知事に手渡された。副知事は、この一括提出に加え、県との防災協定や子育て応援事業の協力に対しても謝辞を述べられた。



▲海老井副知事(右)へ宣言書を提出する松岡会長

その後、全会員の施術所が「飲酒運転撲滅宣言企業」として登録され、施術所待合室に宣言書を掲示することとなった。

なお、このことが平成25年7月25日(木)の西日本新聞朝刊に「福岡県柔道整復師会が飲酒運転撲滅宣言 県内の621施術所も一括して登録」の見出しで掲載され、一般の方にも本会の活動をPRする良い機会となった。

福岡県柔道整復師会が 飲酒運転撲滅宣言 県内の621施術所も一括して登録

福岡県は昨年4月に、全国初となる罰則付きの「福岡県飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例」を施行しました。

同条例により、飲酒運転の撲滅を宣言して、撲滅に向けた取り組みを行う事業者と飲食店からの宣言書の届け出を受け、県が登録する「飲酒運転撲滅宣言企業」「飲酒運転撲滅宣言の店」を設けています。

柔道整復師が加入している福岡県柔道整復師会(松岡保会長)は6月26日、同会と会員施術所(計622事業所)の飲酒運転撲滅宣言書を取りまとめ、海老井悦子副知事に手渡しました。県は同会の宣言書届け出を受け、「飲酒運転撲滅宣言企業」として登録。登録証を発行し、飲酒運転撲滅を呼び掛けるステッカーとともに送付します。

これまでの宣言企業の登録数(7月22日現在)は8401事業所、宣言の店の登録数(同)は2335店。「飲酒運転のない社会の実現に向けて、撲滅宣言の登録拡大に努めています。事業者団体への働き掛けや、事業所や飲食店への直接訪問で取り組みをさらに強化していきます」と県担当者。

飲酒運転撲滅宣言企業・宣言の店の申請や問い合わせは、県新生活推進部生活安全課=☎092(643)3167=へ。

▲2013年(平成25年)7月25日木曜日 西日本新聞

(広報員 勢木博之)

出雲大社 60年ぶりの大掃除



平成25年5月、60年に一度の出雲大社大遷宮が行われました。

遷宮とは神殿などを綺麗に修復するもので、ご神徳もパワーアップされると言われています。そんな遷宮ブーム真っただ中に出雲大社を紹介させていただきます。

・出雲大社参拝ルート

出雲大社の境内に入れるルートはいくつかありますが、正しい参拝ルートは、最初は正門鳥居から入るのが正式な参拝方法です。

正門鳥居を入れて少し歩くと、右手に「祓社」という小さなお社が立っているの、ここで穢れを祓ってから本殿へ向かいましょう。せっかく神殿も綺麗になっているので、綺麗な心身を持って参拝したいですね。ちなみに、白のものを身につけておくと更にご利益があると言われてるので、ぜひお試しください。

・出雲大社での拝み方は他とは少し違う

一般的には 二拝二拍手一拝。

出雲大社では 二拝四拍手一拝。

・出雲大社が縁結びの効果で有名な理由

祭ってある「おおくにぬしのおおかみ 大国主大神」にあります。

世間では「大黒様」として親しまれている大国主大神。

大国主大神が天照大神に国譲りをしたときに、縁を結ぶことを司るようになったことで出雲大社が縁結びに効果があるといわれるようになりました。

・ご利益スポット

本殿に向かう途中、青銅でできた牛と馬が現れます。

これは「しんぎゅう 神牛」「しんめ 神馬」といい、神様の乗り物とされている牛と馬の像です。

「神馬」は、子宝を授かる安産の神馬とされていて信仰深く、鼻のあたりを撫でるとご利益があるようです。

「神牛」は、頭を撫でると学力がアップするといわれています。

・出雲の旧暦10月は一味違う！

旧暦10月は他の地域から出雲大社に神様が集まるため出雲地方では旧暦の10月を「神在月」と呼んでいます。

一方神様が出張する他の地域は神様がいなくなるとされているので「神無月」と呼んでいます。

神在月にはやおよろず八百万の神々が集まって、大国主大神のお許しで縁結びの神儀も行われるといわれています。

神在月は出雲に全国から神様が集まる！

一度にたくさんの願いを言えるのは「今でしょ！」

最後に、これから「神在月」を迎えようとしている出雲地方。

島根には美味しい食べ物もたくさんあります！パワースポットめぐり、食めぐりを楽しみに神々の国島根へのお越しをお待ちしております。

(広報員 井戸内 修)

平成25年度学術・生涯学習講習会印象記

学術部 岩本芳照

日整生涯学習講習会は今年で第21回目を迎えたが、日整会館2階大会議場において例年どおりに開催された。公益目的事業として一般公開講座となっており、都民や一般会員にも参加していただき、約145名の参加者には大変好評の講習会となった。

《タイムスケジュール》

- 11:50 開会式
- 12:00 大学評価・学位授与機構説明会
- 13:00 特別講演「我が野球人生に思う」
- 14:30 学術講習会「富山大学寄附講座報告」
- 15:40 全国ボランティア活動報告「公益社団法人鹿兒島県柔道整復師会ボランティア報告」
- 16:00 会員発表「骨継ぎの知恵袋」「身近にある物を使った応急処置」
- 16:20 生涯学習活動報告
- 16:40 保険部報告事項
- 17:00 閉会式



【特別講演】

演題：「我が野球人生に思う」

講師：元プロ野球選手・監督

山本 一義 先生

内容：チームは人間関係が重要で、周りとの絆ができれば強くなれる。広島カープで15年間4番打者として頑張り、巨人戦で最も打ったが、あるとき、地元ファンにひどくヤジられ、スタンドに登って行ってファンを怒鳴った。その時に敵チームであった巨人のナンバー2の牧野コー



チに怒られた。長嶋・王であったらどんなヤジにも笑って対応すると、辛いときほど笑え、90数パーセントの人間は辛い顔をするが、一握りの笑える選手になれと諭された。



ルーツ外人監督が広島に就任したときに「勝つために行動しよう」「勝つために…」「勝つために…」と4ヶ月間言われ続けたが、2ヶ月目位から選手が本気になって行った。積極的思考と言葉に出すことが重要である。

オールスターで前の打者の長嶋さんが「俺は打てる」「俺はチャンスに強い男だ」とブツブツ言いながら出て行って見事に逆転打を打った。やはり何事も必ずできるという意識が重要だ。

今の選手は「違和感」で休むが、長嶋さんは「指の亀裂骨折ぐらいで休めるか」と言って出場していた。私も鎖骨亀裂骨折した時に出ようとしたが、さすがに痛くて無理だった。1日休むと自分に分かる、2日休むとライバルに分かる、3日休むと監督に分かる。怪我をした選手や将来のある子供たちをどうか1日でも早く治してあげてください。

勝負の世界に生きた男の厳しさと、何事にも通じる成功の秘訣を、笑いを交えながらお話いただき、大変好評だった。

【学術講習会】富山大学寄附講座報告

演題：「運動と柔道整復後療法」～高齢化社会における柔道整復後療法の重要性～

講師：富山大学大学院

西条 寿夫 教授

内容：日整が富山大学で行っている寄附講座で研究中の、運動と柔道整復後療法についての説明があった。

1. 社会の高齢化と要介護認定
2. 運動が脳に及ぼす影響
3. 腰痛に対する柔道整復後療法の有効性に関する臨床試験
4. 柔道整復後療法のメカニズム解明 (科学的根拠)

- ①ヒトを用いた研究
- ②動物を用いた研究

以上の項目について研究成果の詳しい報告があった。さらに、遅発性筋痛に対する後療法分子基盤、手技療法・温熱療法の効果など、メタボローム解析



について現在も研究を行っている。

【全国ボランティア活動報告】

担当：九州ブロック

(公社) 鹿児島県柔道整復師会

演題：「(公社)鹿児島県柔道整復師会ボランティア報告」

演者：(公社) 鹿児島県柔道整復師会
野村 鉄男 会員

内容：1月 指宿菜の花マラソン救護

7月 中体連柔道大会救護

8月 ふるさと学園夏のお楽しみ会主催

10月 妙円寺参り柔道大会救護

鹿児島市民スポーツ大会救護(年5回)

マスターズバレーボール大会・市民ママさんバレーボール大会・市民バトミントン大会・市民卓球大会・市民生き生きフェスタ、等を行っ



ているが、中でも特に「指宿菜の花マラソン救護」「ふるさと学園夏のお楽しみ会」についての詳しい活動報告があった。

【会員発表】骨継ぎの知恵袋

演題：「身近にある物を使った応急処置」

演者：(公社) 兵庫県柔道整復師会

五反田 重夫 会員



内容：ペットボトルを使った固定装具の作り方、食品トレイを使った固定装具の作り方、ペットボトル応用編(コップ・ランタン等)、新聞スリッパの作り方、スーパーなどのレジ

袋を使った応急処置、キッチンペーパーを折るだけの紙マスクの作り方など、スライドと実演を交えた発表があったが、会員にとっても参考になった。

腰痛や肩こり（頸肩背部痛）の発生要因とその予防改善対策について

富山県 高崎 光雄

■はじめに

近年、肩や頸（首）のコリや腰にハリや痛みなどの症状を訴える人が目立つ。厚生労働省の平成19年国民生活基礎調査によると、日本人の有訴者率は、男性の1位が腰痛、2位が肩こり、女性の1位が肩こり、2位が腰痛と、腰痛と肩こりが上位を占め、男女ともそれが上昇してきている。また、腰痛の通院者率は、男性が4位、女性が2位と上位にあり、腰痛と肩こりの対策は重要な課題といえる。日常診療においても患者から腰痛、肩こりの解消方法について問われることが多々あり、これから述べる体操を推奨している。

■腰痛・肩こりの原因

最近の生活や労働は、機械化や電化が進み、身体活動を極めて低下させることとなった。また、一般的な職場でのからだの使い方は、デスクワークなどの静的作業が多く、偏りのあるものにした。このようなからだの使い方は、頸（首）肩背腰部の筋の十分な収縮と伸展を繰り返す機会が不足し、静的な筋収縮に終始した状態を多くしている。静的筋収縮の持続は、筋の血管を長時間圧迫させるので、筋の血流障害が生じて代謝を悪くし、疲労物質などの発痛物質の蓄積を増大させることになり、コリやハリなどの自覚症状を訴えるようになる。また、脊椎骨は約25個あるが、その椎間関節の動きも不十分となるため、椎間関節を取り巻いている靭帯の弾力性喪失や筋拘縮を招き、骨折でギブスを装着した後のように椎間関節の可動域が失われることになる。そしてからだを反って、椎間関節が少し動かされただけでも疼痛を訴えるようになる。

従って、最近の多くの頸（首）肩背腰部のコリやハリなどの自覚症状の原因は、頸（首）肩背腰部の筋の十分な収縮と伸展を繰り返す機会が失われたことにあると考えられる。

■腰痛・肩こりの予防改善体操

原因が頸（首）肩背腰部の筋の十分な収縮と伸展を繰り返す機会が失われたことにあると考えれば、その予防と改善の対策として、頸（首）肩背腰部の筋の十分な収縮と伸展を補うことが必要となろう。ここでは頸（首）肩背腰部の筋の十分な収縮と伸展を伴う体操として、東京海洋大学大学院の佐野裕司教授が提案している立位で簡単にできる「背反らし・背伸ばし体操」を紹介する。それは、写真のとおり「背反らし体操」と「背伸ばし体操」の2種類の体操からなる。

「背反らし体操」は、頸（首）肩背腰などの背中側の筋の収縮と弛緩を繰り返すことにより、筋血流を促進し、代謝をよくすることを目的としている。はじめに①の両足を肩幅程度に広げた立位姿勢から、②の腕を後方に振り上げて背中を扶むようにし、次いで頭部を後屈させながら上半身をしっかり反らせる。そして①の立位姿勢に戻って、それを繰り返す。号令をかけて実施するならば、1, 2, 3, 4が②のからだ反らし（約3秒）、5, 6, 7, 8が①の立位姿勢である（約3秒）。それを10回繰り返す（約1分）。

「背伸ばし体操」は、頸（首）肩背腰などの背中側の筋をしっかりと伸展させて、筋の拘縮や硬化緊張を改善させることを目的としている。はじめに①の両手を後頭部で組んだ立位姿勢から、②の肘で顔をはさみ、顎を引いて胸を丸め、上半身をしっかりと前屈させる。そして①の立位

姿勢に戻って、それを繰り返す。号令は、1, 2, 3, 4が②の顎を引いて胸を丸めた前屈(約3秒)、5, 6, 7, 8が①の立位姿勢である(約3秒)。それを10回繰り返す(約1分)。

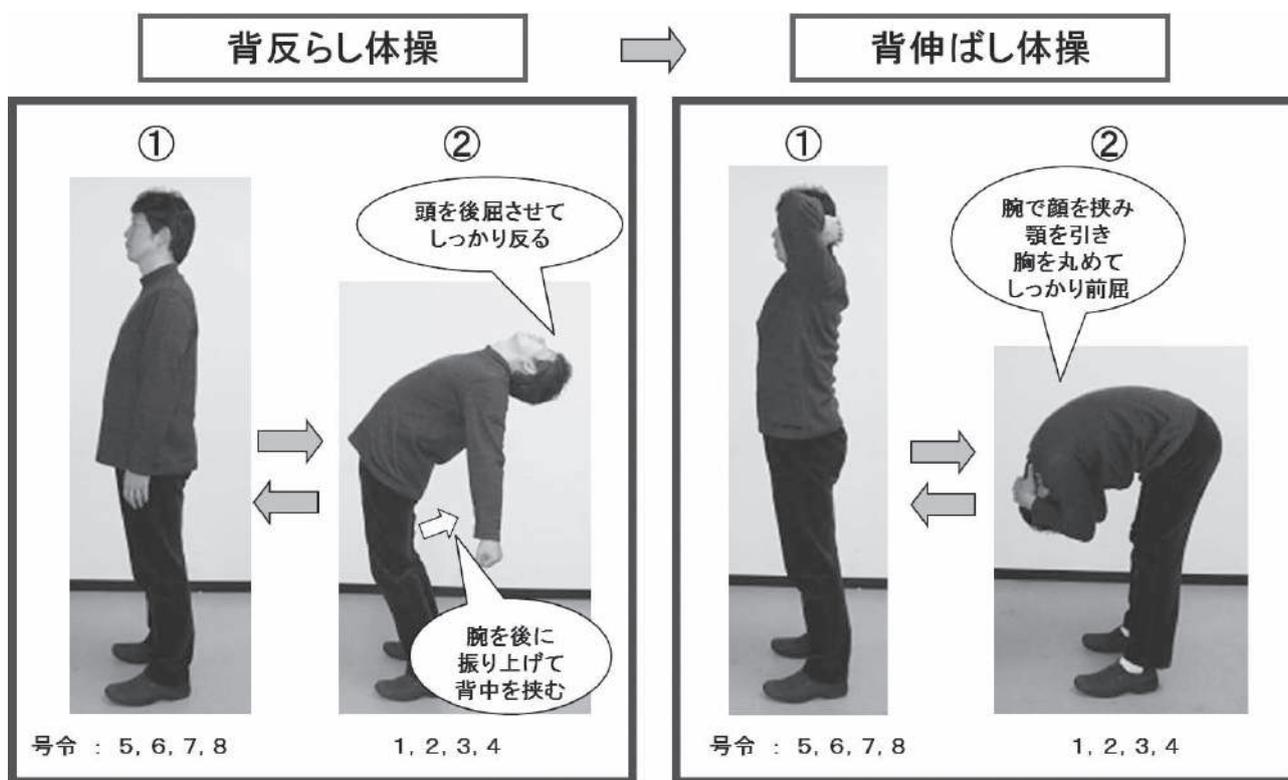
この背反らし・背伸ばし体操は、1セットを約2分で実施できるが、必ずはじめは軽めに行い、慣れてきたらしっかり行うようにする。また「背反らし体操10回」→「背伸ばし体操10回」の順で行い、それを1日に1~2セット実施することが望まれる。

■体操の効果

私の施術所でこの体操を紹介したところ、体

操を1セット実施した直後に、頸(首)肩背腰部のコリ、ハリなどの症状が軽減して「からだが軽くなった」「スッキリした」との感想が多く寄せられた。

佐野教授によると「緊張・不安」「抑うつ・落込み」「怒り・敵意」「疲労」「混乱」といったネガティブな精神レベルが改善し、「活気」といったポジティブな精神レベルが上昇すること。さらに、背反らし・背伸ばし体操を1~3ヶ月間継続すると、頸(首)肩背腰部の筋や靭帯などの身体状態が改善し、コリやハリなどの症状も軽減消失することが明らかになったと報告している。



「背反らし体操10回」→「背伸ばし体操10回」の順で行い、これを1日に1~2セット実施する。

出典: 東京海洋大学大学院 佐野裕司

私の夢

「地域のために私ができること」



朝日医療専門学校 広島校 鈴木 裕映子

私の夢は、柔道整復師の資格を取得して、学んだ知識・技術を生かして地域に貢献することです。

私が柔道整復師を目指すことを決め、たきっかは、中学生のころ母親に連れていかれた整形外科で受けた施術に感動したからです。私は小学生のころ柔道を習い始め、中学生になってから腰痛に悩まされるようになりました。私生活にまで影響が出てきたため、整形外科に行くことにしたのです。そこで柔道整復師の先生に施術してもらおうと腰の痛みが驚くほど軽くなり、思い切って柔道ができるようになった嬉しさと、同時に先生の技術に感動したのです。

また、地域に貢献したいと思った理由は、朝日医療専門学校に入学し、授業や部活動で怪我のことやいろんなスポーツの救護活動、テーピングなどを見て、ここで得た知識・技術を私の地元の人たちに生かしたい、と思ったからです。

そして、もう一つは子供から高齢の方たちが元気にスポーツをしてもらいたい、私がその支えになりたいと思ったからです。私はバドミントンや柔道をしてきました。特に大きな怪我はなかったのですが、先輩・後輩が骨折などの怪我で練習に参加できなかつたり、試合に出場できなくて悔しい思いをしているのを間近で見ている時も悲しくなりました。私に何かできないか、いや私の周りだけでなくもっとたくさんの人たちが同じような思いをしているなら私が支えになってあげられないかと思ったからです。

私の夢を叶えるために、私が今やるべきことは勉強です。授業以外にも外部の勉強会に参加したり、救護活動に参加したり、知識と技術を身につけて地域の人びとの支えになれるよう、日々がんばっていきたいと思います。少しでもみんなの役に立つために。

平成25年度公益社団法人日本柔道整復師会主催学術大会一覧

	担当都道府県	学会名称	講師・演題	開催予定日
関東	(公社) 山梨県整骨師会	公益社団法人日本柔道整復師会 第36回関東学術大会 山梨大会	国立病院機構甲府病院外科系診療部長 荻野哲男先生 独立行政法人福祉医療機構福祉貸付 部長 千田 透先生	平成26年 3月9日(日)

山梨大会は、どなたでも無料でご参加いただけます。

〈表紙解説〉

出雲大社 拜殿

社団法人広島県柔道接骨師会 石川 勝也



今年5月、60年ぶりの御修造「平成の大遷宮」が行われた出雲大社は、縁結びの神様として知られる「大國主大神」をお祀りしています。前の遷宮の年、昭和28年5月に、荒垣内にあつた古い拜殿・鑽火殿・庁舎が不慮の火のために焼失しましたが、全国の崇敬者の浄財によつて、6年後の昭和34年に戦後の本格的な木造建築として屈指の規模を誇る総檜造りの新拜殿が竣工しました。巨大な注連縄は周囲4m、長さ8m、重さ1・5トンあります。この参拝の流儀は「二拝、四拍、一拝」ですが、「しあわせ」を願う心からともいわれています。稲羽の素兎の説話が我が国最初の医療行為とされ、大國主大神は「医の神様」といわれ、出雲大社があるこの地方は古来より「医療発祥の地」といわれています。

第40回日整親善ゴルフ栃木大会は中止

平成25年9月16日（月・祝）栃木県宇都宮サンヒルズカントリークラブにて、第40回日整親善ゴルフ大会が開催される予定でしたが、台風18号の影響により中止となりました。余念なくご準備いただいた栃木県の先生方に感謝申し上げます。

広報部

◆原稿締切日は奇数月20日です◆

〈投稿される会員へお願い〉

ワードまたは一太郎などで作成された原稿の場合は、そのファイルをメールでご送付ください。

★編集会議の結果、投稿の内容により未掲載となる場合もありますのでご了承ください。また「投稿」の場合、必ず日整広報原稿と記入または入力してください。

★投稿文は各都道府県事務所を通して応募ください。

★原稿・投稿者名にはふりがなをお願いします。

宛先：“日整広報” <kouhou@shadan-nissei.or.jp>

日整はつつ！発行日と原稿締切

※原稿の締切厳守をお願いします。(広報部)

号数	15号	16号	17号	18号	19号	20号
原稿締切	11月20日	平成26年 1月20日	3月20日	5月20日	7月20日	9月20日
発行	平成26年 1月20日	3月20日	5月20日	7月20日	9月20日	11月20日

日整文芸

(作品は1人3首〈句〉までといたします)

【短歌】

―母 逝きて―

埼玉県 高野 光雄

やれやれと山藤散つて九十四歳
けむりたなびき秋田おぼこも

雄物川さるすべり褪せ空は雲
母は亡くとも母の包丁

晩秋の黄金くがねの光暈の目
母オオルリとピーリーリーと唄う

福岡県 山下 智章

風薫る青広がりにし水田に
白鷺ふわり弧を舞い降りる

金色の月と神輿の空間に
鳳凰は舞い輝き放つ

ひさかたの光優しき月を見る
今も昔も恋同じけり

【俳句】

虫名残

群馬県 鈴木 乗風

強塩でしめし鱒ぞ墓詣
着をさめの干すや衣に虫名残
爛つけし素揚げ秋茄子恙なき

秋の風

福井県 田上 滋良

古民家の門放たれて秋の風
秋立つや電信棒のさらに伸ぶ
鶉篝に鮎の叫びを聞いたよな

香川県 伊勢 豊郎 (豊生)

父かたみふじの古木も秋化粧
完成を夢見ながら我城
夢宇宙月のかぐやに願いつつ

【川柳】

北海道 阿部篤夫

手は痺れ鮭釣り行ぬ知床へ
網走や友から届く生鮭が
新鮮な鮭鍋旨い終秋や

石川県 東 勝一

地響の演習音で足止まる
流星のシャワーを浴びて剣ヶ峰
御来光プロポーズ声どつと沸く
(富士山世界文化遺産登録記念登山)

◇◇◇◇◇ 〔一般投稿〕 ◇◇◇◇◇

【短歌】

奈良県 長谷川治三郎

〔節句〕

天空に脇目もふらず生きがい
歩み続けし咲けば散りゆく
歳時記の水面に写す神舟じんしゅうは
暑き夜中を幽玄ともす
朧月今宵照るかや眺むれば
静かに浮ぶ夏の花々

「日整文芸欄では一般の方々からの投稿を募集しております」

広報部

日整文芸は、会員の方に加え、一般の方々からも「短歌」「俳句」「川柳」を募集します。一般の方の投稿は、日本柔道整復師会会員を通じて、都道府県名、紹介会員名および連絡先、作品提出者名を明記の上、ご応募してください。

日整文芸を通じて読者の皆様とよい交流の場となればと願っております。

作品は会員と同じく1人3首〈句〉までといたします。多くのご応募をお待ちしております。

宛先 〒110-0007 東京都台東区上野公園16番9号
公益社団法人 日本柔道整復師会広報部
TEL: 03-3821-3511 FAX: 03-3822-2475
E-mail: kouhou@shadan-nissei.or.jp

編集後記

■今年から広報部で仕事をさせていただきます。自分も戸惑い、先輩の先生方へ迷惑のかけっぱなしです。カメラ・ビデオの取材、辞書を片手の校正。少しでも近付きたいと思っています。1文字、1文字の大切さ、日整の顔としての外部広報、会員の先生方に迅速で正確な情報提供の内部広報。教えをいただきながら努力いたします。**(晴天雀)**

■先日、物置部屋のダンボールをひっくり返していたら、東京オリンピックのモノクロ写真集が目にとまりました。最初に開いたページは勿論柔道競技。無差別級で、試合を終えたヘーシンク選手の勝者としての冷静沈着な行動。この態度が柔道を世界に広めたきっかけになったと、改めて見入った。

前開催から50年。今回、我が業界は柔道競技の応援団に止まることなく、7年後の東京開催に向けて、トレーナー活動等々に関わり協力しなければならない。工藤会長の言葉をかりるなら、我が業界の名誉を掛けて、日本の武士道精神にのっとった「おもてなし」ができるよう頑張りたい。**(多毛家)**

■今年も、第3回日整全国少年柔道形競技会のすべてのビデオ撮影をさせていただきました。

学生るとき、昇段試験の前に一生懸命練習した懐かしい思い出が蘇りました。どのチームもレベルが高く素晴らしい競技会でした。出場選手の大変な練習と指導された先生方の計り知れないご苦労があったと思います。

広報誌では掲載しきれない日整全国少年柔道大会・形競技会の模様を日整のホームページで動画やスライド写真で配信中です。ぜひ関係者の皆様にお知らせくださり、多くの方々にご覧

になっていただければ幸いです。**(家真舵)**

■本誌の中で、第40回日整親善ゴルフ栃木大会が中止になったことをお知らせしました。今年猛威を震った台風ですが、全国各地で生々しい被害の映像を見るたびに胸が痛みます。これだけ日本列島の近海を通る台風、時には上陸する台風を経験した年は、過去にあまり記憶にありません。地球温暖化で台風が発生しやすい条件だといっても異常気象だと思います。

そこで、雪国に住む我われにとって異常気象の影響で大雪にならないように祈るだけです。例年通り冬将軍との対決の準備に取り掛かる時期になりつつあります。**(魅家下)**

■これからの広報部、IT委員会は、日整の行事に対して「速報」ということで即座に記事を作成して、1週間以内にお知らせをする方針となりました。ただし、正確な情報が必要とされますので、初心に帰りしっかりと記事づくりを心掛けたいと思います。**(和座尾)**

■10月13日、公益社団法人日本柔道整復師会主催の生涯学習講習会の特別講演を聞いた(今号42ページ参照)。講師は、広島東洋カープ(現広島カープ)で15年間4番打者として名声を上げた山本一義さん。往時を述懐し、野球界を風靡した長島茂雄さん、王貞治さんらとの出会いを糧に野球人生で得た教訓を語った。

氏は講演の中で「チームは人間関係と絆」「何事も必ずできるという意識」が重要であると説いた。社会生活もこの2つは欠かせない要素であろう。仲間がエラーをしたときは、決して非難をしないで補ってあげることが輪につながり、好結果を生む。助け合いの精神を基本として、お互いの信頼を基礎とすることが最も大切であることを改めて強く感じた。**(多夢楽)**

「日整はつらつ!」VOL. 14 NOV 2013

平成25年11月20日発行

公益社団法人 日本柔道整復師会

〒110-0007 東京都台東区上野公園16-9

電話 (03)3821-3511 (大代表)

発行人 工藤鉄男

編集者 永田官久

制作・印刷所 東京リスマチック株式会社



柔道整復師倫理綱領

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民族医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。ここに柔道整復師は、その名譽を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓つものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を費く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力を努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度と誠意を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽す。